



# 連結業績の概要 2019年度第3四半期



2020年2月4日

コスタ・サルウコス  
チーフ フィナンシャル オフィサー

Better Health, Brighter Future

## 重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション (presentation)」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社 (以下、「武田薬品」) によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション (それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。) は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分、提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投資若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図していません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、(投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく) 情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で (受領者に対して提供される追加情報と共に) 提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。同様に、「当社 (we, us及びour)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることでもあります。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることでもあります。

### 将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積り、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「確実にする (ensures)」、「だるう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「することができた (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではないと見なしてはなりません。この書類における将来見通し情報は、この書類の作成日時点のみにおける、当社の見積り及び前提に基づくものです。かかる将来見通し情報は、当社又は当社の役員による、将来の業績に関する保証を伴うものではなく、既知及び未知のリスクと不確実性その他の要素を伴います。リスクと不確実性には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規の変更、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、買収対象企業とのPMI (買収後の統合活動) の時期及び影響、武田薬品の事業にとってのノン・コア資産を売却する能力及びかかる資産売却のタイミングが含まれますが、これらに限られません。これらにより、当社の実際の業績、経営結果、財務内容は、将来見通し情報において、明示又は暗示されたものと大きく異なる可能性があります。本プレゼンテーションの受領者は、将来見通し情報に過度に依存するべきではありません。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想又は見積りではありません。

### 国際会計基準に準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、実質的な売上収益、Core営業利益、実質的なCore営業利益、Core純利益、実質的なCore EPS、有利子純負債、EBITDA、調整後EBITDA、フリーキャッシュフローのように、IFRSに準拠しないIFRS財務指標が含まれています。当社役員は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本ニュースリリースに含まれるIFRS以外の指標に基づき行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、に最も近いIFRS財務指標では含まれることとなる、又は異なる数値となる一定の利益、コスト及びキャッシュフロー項目を除外しております。IFRSに準拠しない財務指標を提供することで、当社役員は、投資家の皆様に対し、当社の経営状況、主要な業績及び動向の更なる分析のための付加的な情報を提供したいと考えております。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、本プレゼンテーションのスライド38-51に記載した、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との照合を行っていただけますようお願い申し上げます。

### 医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

### 財務情報

当社の財務諸表は、IFRSに基づき作成しております。米国会計基準に基づき作成されておりましたシャイアー社の売上収益は、IFRSに組み替えておりますが、両者に重大な差異はございません。

シャイアー社の買収は2019年1月8日に完了しており、当社の2019年3月31日までの事業年度における連結業績には、2019年1月8日から2019年3月31日までのシャイアー社の業績が含まれています。なお、「旧武田薬品」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収前の当社のビジネスを意味し、「旧Shire社」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収により当社が取得したビジネスを意味しています。

本プレゼンテーションには、シャイアー社の買収が2018年4月1日に完了したとの前提に基づき試算が含まれています。当該試算は、米国証券取引委員会の定めるRegulation S-Xの第11条に基づき算出されたものではないことにご留意ください。当該試算は、説明の便宜のためであり、また、本プレゼンテーションの作成日までに当社が入手した情報に基づく一定の前提及び判断に基づくものであって、これらの前提及び判断は、シャイアー社の買収が実際に2018年4月1日に完了していたとしても当てはまるものではありません。さらに、当該試算は、シャイアー社の取得に直接には起因しない、又はシャイアー社の取得後に生じた、事業売却や取得対価配分 (PPA) 等の一定の取引及び争事も対象としています。従って、これらは、シャイアー社の買収が実際に2018年4月1日に完了していたとしても、当社の財務状況及び業績を正確に反映するものではありません。そのため、本プレゼンテーションに含まれる試算は、必要以上に依拠すべきものではありません。



# ONE TAKEDA : 戦略的優先項目を「ONE TAKEDA」として達成

- ☑ 旧Shire社の買収後12か月間、「One Takeda」として事業を運営
- ☑ サステナビリティおよびカーボンニュートラル目標を達成するというESG\*1活動に注力
- ☑ グローバルブランド、R&Dエンジン、力強い利益率により持続的な成長を確かなものに
- ☑ 14のグローバルブランド、コストシナジー、営業経費効率化により、2019年度第3四半期累計\*2は力強い業績で着地
- ☑ 2019年度通期の実質的な売上収益\*3ガイダンス「横ばいから僅かに増加」を確認  
2019年度通期の利益ガイダンスを上方修正、財務ベース営業利益は黒字を見込む

\*1. ESG : 環境・社会・ガバナンス

\*2. 2019年度第3四半期累計 (2019年4-12月)

\*3. ベースライン3兆3,000億円 (旧武田薬品と旧Shire社の2018年4月~2019年3月の12ヶ月の売上収益を、同期間平均レート111円/ドルで換算、合算し概算化したpro-formaベース; また旧武田薬品と旧Shire社の事業売却等を除く) と比較した同一為替レートをベースとした成長率 (2018年度期中平均レート111円/ドルを適用)



## 2019年度第3四半期累計の決算ハイライト

### ビジネスエリアの フォーカス



- 14のグローバルブランドの実質的な成長は+20%
- ポートフォリオの適正化・レバレッジ低下を加速するための事業売却計画を着実に実行
- 血漿分画製剤事業において今後5年間で65%以上の血漿製剤供給および製造能力増強に向けた迅速な成長にコミット

### R&D エンジン



- ウェーブ1新規候補物質：未治療の非小細胞肺癌\*1を対象としたTAK-788、移植非適応の急性骨髄性白血病におけるpevonedistat (TAK-924) の臨床第3相試験開始、デング熱ワクチンTAK-003の臨床第3相試験 (TIDES試験のパート2) のデータ読み出し
- グローバルブランド：ALK陽性非小細胞肺癌の一次治療を対象としたALUNBRIG (2回目の中間解析) および移植未実施の多発性骨髄腫の維持療法を対象としたニララーロの臨床第3相試験 (MM4試験) のデータ読み出し、潰瘍性大腸炎におけるENTYVIOの皮下注射製剤に関し、米国食品医薬品局 (FDA) から審査完了報告通知を受領
- 戦略的提携：既製CAR NK細胞治療プラットフォームでMDアンダーソンがんセンターと提携

### 強固な財務 プロファイル



- 財務ベース前年比+82.6%、実質ベース (pro-forma\*2比較) 同△1.2%
- Core営業利益\*3は7,922億円、実質ベースのCore営業利益率は30.9%
- 通期の配当金支払いおよびXIIDRAにかかる税金支払い後の純有利子負債/調整後EBITDA\*4は4.1倍
- 2019年度通期の実質的な売上収益ガイダンス\*5「横ばいから僅かに増加」を確認、2019年度通期の利益ガイダンスは、力強いビジネスモメンタム・想定よりも早いコストシナジー実現により上方修正
- Shire社買収の取得対価の配分 (PPA) が完了し、ポジティブな損益計算書 (P&L) 影響を見込む、2019年度通期における財務ベースの営業利益が黒字となる見込み

\*1. エクソン20挿入変異を有する患者。

\*2. 2018年度第3四半期累計pro-formalは、2018年度第3四半期累計 (4-12月) の武田薬品売上収益 (事業売却等を調整) と、2018年度 (2018年4月~2019年3月) の年間平均レート (1米ドル111円) で円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた (なお、重要な差異は認められなかった) 同期間の旧Shire社売上収益 (事業売却等を調整) の合計。調整表は38ページをご参照下さい。

\*3. 前年度までCore Earningsとして呼称 (定義変更なし)。定義は31ページをご参照下さい。

\*4. 調整表は48-49ページをご参照下さい。

\*5. ベースライン3兆3,000億円 (旧武田薬品と旧Shire社の2018年4月~2019年3月の12ヶ月の売上収益を、同期間平均レート111円/ドルで換算、合算し概算化したpro-formaベース; また旧武田薬品と旧Shire社の事業売却等を除く) と比較した同一為替レートをベースとした成長率 (2018年度期中平均レート111円/ドルを適用)

略語に関しては、Appendixの略語集をご参照ください。



## 第3四半期累計において、力強い利益率とキャッシュ・フローが継続

### 2019年度第3四半期累計 連結業績 (サマリー)

(億円)	財務ベース		CORE*2		実質ベース
	2019年度 第3四半期累計	対前年同期	2019年度 第3四半期累計	対前年同期	
売上収益	25,195	+82.6%	25,195	+82.6%	△1.2% (pro-forma成長率)*1
営業利益	1,625	△42.9%	7,922	+129.9%	
営業利益率	6.5%	△14.2pp	31.4%	+6.5pp	30.9%
当期利益	425	△74.1%	5,602	+113.1%	
EPS (円)	27円	△183円	360円	+24円	359円
フリー・キャッシュ・フロー*3	7,457	+309.2%			

\*1. 対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度第3四半期累計pro-formaは、2018年度第3四半期累計(4-12月)の武田薬品売上収益(事業売却等を調整)と、2018年度(2018年4月~2019年3月)の年間平均レート(1米ドル111円)で円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた(なお、重要な差異は認められなかった)同期間の旧Shire社売上収益(事業売却等を調整)の合計。調整表は38ページをご参照下さい。

\*2. 調整表は40-43ページをご参照下さい。

\*3. 調整表は47ページをご参照下さい。



## 財務ベースEPSは一過性要因と非資金性費用の影響を受けるも、プラスに

### 2019年度第3四半期累計 連結業績 (財務ベース)

(億円)	2018年度 第3四半期累計	2019年度 第3四半期累計	対前年同期
売上収益	13,800	25,195	+82.6%
売上総利益率	73.2%	66.6%	△6.6pp
営業費用	△6,766	△10,648	+57.4%
対売上収益比率	49.0%	42.3%	+6.8pp
償却費および減損損失	△794	△3,291	+314.6%
その他営業収益/費用 (net)	302	△1,215	N/M*1
営業利益	2,844	1,625	△42.9%
営業利益率	20.6%	6.5%	△14.2pp
税率	21.1%	23.7%	+2.6pp
当期利益	1,644	425	△74.1%
EPS (円)	210円	27円	△183円

\*1. 比較検討不可能 (Not Meaningful)



# コストシナジーおよび営業経費効率化がCore営業利益率の向上に寄与

## 2019年度第3四半期累計連結業績 (Core)\*1

(億円)	2018年度 第3四半期累計	2019年度 第3四半期累計	対前年同期
<b>売上収益</b>	<b>13,800</b>	<b>25,195</b>	<b>+82.6%</b>
売上総利益率	73.2%	73.3%	+0.1pp
営業費用	△6,656	△10,547	+58.5%
対売上収益比率	48.2%	41.9%	+6.4pp
<b>営業利益*2</b>	<b>3,446</b>	<b>7,922</b>	<b>+129.9%</b>
営業利益率	25.0%	31.4%	+6.5pp
税率	22.8%	19.8%	△2.9pp
<b>当期利益</b>	<b>2,629</b>	<b>5,602</b>	<b>+113.1%</b>
<b>EPS (円)</b>	<b>336円</b>	<b>360円</b>	<b>+24円</b>

\*1. 調整表は40ページをご参照下さい。

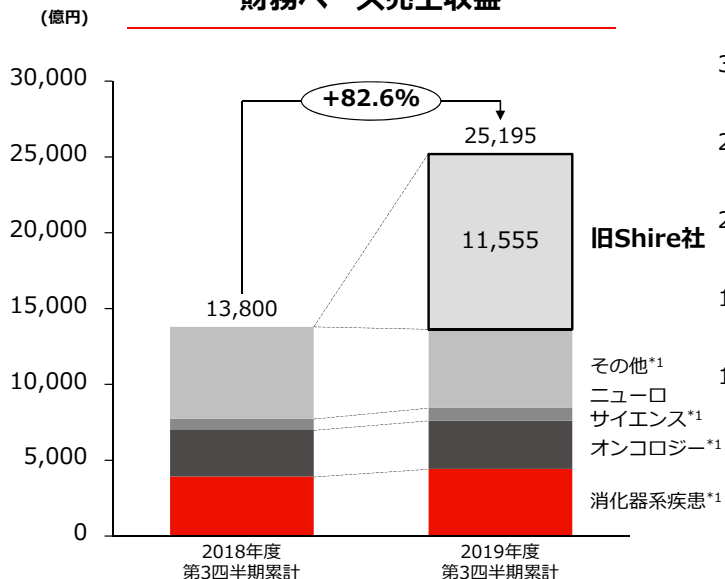
\*2. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は31ページをご参照下さい。

6

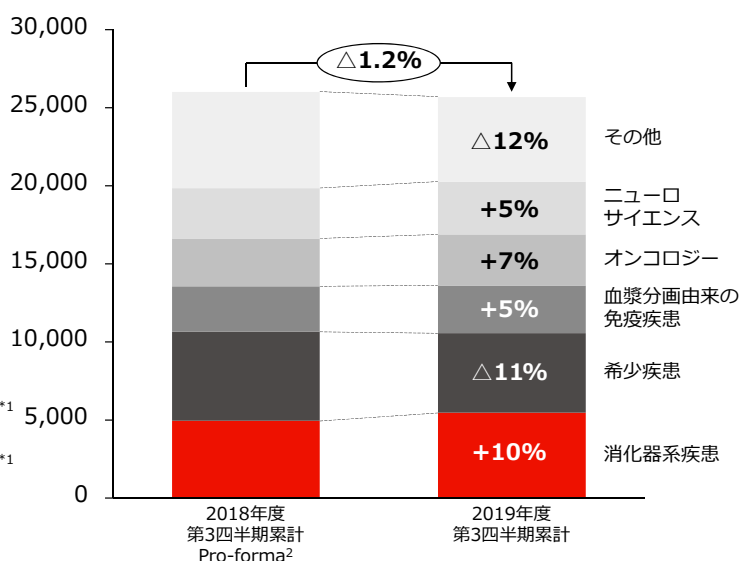


## 財務ベース売上収益は旧Shire社連結で+82.6%、主要なビジネスエリアにおける売上収益の増加分は「その他」製品群の減少により相殺されPRO-FORMA売上収益△1.2%

### 財務ベース売上収益



### 実質ベース売上収益 (pro-forma\*2)の成長



\*1. 旧武田薬品のみ売上収益を表示、旧Shire社買収により獲得した製品を除く。

注: 財務ベース売上収益および成長率はIFRSに基づき、実質ベース売上収益対前年比は実質ベースのpro-forma成長を示す。

\*2. 2018年度第3四半期累計pro-formaは、2018年度第3四半期累計(4-12月)の武田薬品売上収益(事業売却等を調整)と、2018年度(2018年4月~2019年3月)の年間平均レート(1米ドル111円)で円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた(なお、重要な差異は認められなかった)同期間の旧Shire社売上収益(事業売却等を調整)の合計。調整表は38ページをご参照下さい。

7





# 主要な5つのビジネスエリアにおけるポートフォリオが第3四半期累計売上収益の約79%を占める

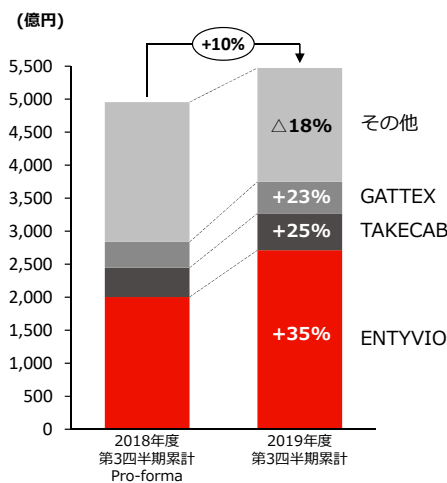
消化器系疾患	希少疾患			血漿分画製剤 (PDT)	オンコロジー	ニューロサイエンス	その他
対売上収益比約21% 対前年比+10%	対売上収益比約20% 対前年比△11%						対売上収益比約21% 対前年比△12%
	希少代謝性疾患 対売上収益比約6% 対前年比△4% (NATPARA除き同+2%)	希少血液疾患 対売上収益比約11% 対前年比△14%	遺伝性血管浮腫 対売上収益比約4% 対前年比△11%	PDT免疫疾患 対売上収益比約12% 対前年比+5%	対売上収益比約13% 対前年比+7%	対売上収益比約13% 対前年比+5%	
Entyvio vedolizumab Takecab ALFISEL Gattex DEXILANT Lialda amitiza motegrity	elaprased REPLAGAL VPRIV Natpara*1	ADVATE ADYNOVATE vonvendi Obizur RIXUBIS AGR'LIN FEIBA IMMUNATE IMMUNINE HEMOFIL M IMMUSEVEN	TAKHZYRO firazyr KALBITOR PDT希少血液疾患 PDT遺伝性血管性浮腫 FEIBA IMMUNATE IMMUNINE HEMOFIL M IMMUSEVEN CINRYZE	GAMMAGARD LIQUID HyQvia Cuvitru Flexbumin HUMANALBUMIN Glassia Aralast NP kenketu glovenlin-I KENKETU NONTHRON KENKETU ALBUMIN	NINLARO ALUNBRIG VELCADE ADACETRIS ICLUSIG	Vyvanse Tintellix Mydayis AZILECT intuniv BUCCOLAM	AZILVA® Nesina® Colcrys Neosaldina® Magnyl Xefo Ebrantil etc.

注：対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度第3四半期累計pro-formaは、2018年度第3四半期累計（4-12月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度（2018年4月～2019年3月）の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）同期間の旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。  
\*1. 当社はNATPARAの供給再開計画についてFDAと緊密に連携するも、追加データや米国食品医薬品局（FDA）の見解に基づく追加の製品改良および試験が必要であるため遅延する可能性が高く、その結果、2020年度は米国でのNATPARAの売上収益を見込めない。

## 消化器系疾患

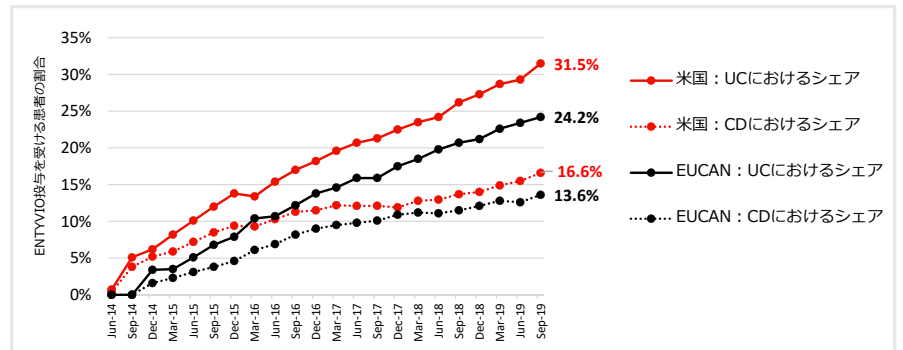
### 消化器系疾患フランチャイズの堅調な成長は腸管選択的なENTYVIO®が牽引

消化器系疾患 ポートフォリオ  
第3四半期累計 実質的な売上収益成長



### 米国および欧州において患者シェアの拡大

- 潰瘍性大腸炎におけるアダリムマブとの初めてかつ唯一の直接比較データ（VARSITY）がNEJMに掲載された後、有効性プロファイルが処方医に受け入れられつつある
- 米国FDAから受領した潰瘍性大腸炎患者を対象とした皮下投与製剤に対するCRL（審査完了報告通知）は、臨床での安全性・有効性データに関連するものではなく、皮下投与製剤のデザインやラベルに関する内容。本CRLの内容の解決に向けて取り組んでおり、2020年上半分にタイムラインを更新することを想定
- F. Hoffman-La Roche AG社が保有する“809特許”に関するすべての係争を解決するために、同社との和解およびライセンス契約に同意<sup>\*1</sup>



出所：SHA Medical and Pharmacy Claims data, 2019年10月、2019年度第2四半期までのデータ；EUCAN：社内推定

\*1. 当社はF. Hoffman-La Roche AG社（“Roche社”）と、ENTYVIO（ベドリスズマブ）およびグリコシル化抗体に関するRoche社の欧州特許第2007809号（“809特許”）に係る両社間の全ての進行中の特許訴訟および紛争の和解ならびにライセンスに関する契約に同意。当該和解およびライセンス契約に従い、当社はライセンサー時およびENTYVIOの売上高に基づくロイヤリティを支払う。本和解およびライセンス契約による支払い義務が当社の財務諸表に与える影響は軽微。また、当社は紛争に関連したほとんどの費用を2019年度上期までに既に認識していたため、第3四半期における追加の影響は軽微。さらに、2020年度およびそれ以降に予想される年間の財務インパクトは軽微。

注：売上収益の絶対値は実績為替レート（財務ベース）、対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度第3四半期累計pro-formaは、2018年度第3四半期累計（4-12月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度（2018年4月～2019年3月）の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）同期間の旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。  
UC：潰瘍性大腸炎、CD：クローン病、NEJM：New England Journal of Medicine、EUCAN：欧州およびカナダ



希少疾患

# TAKHZYRO®は遺伝性血管性浮腫において予防市場を拡大

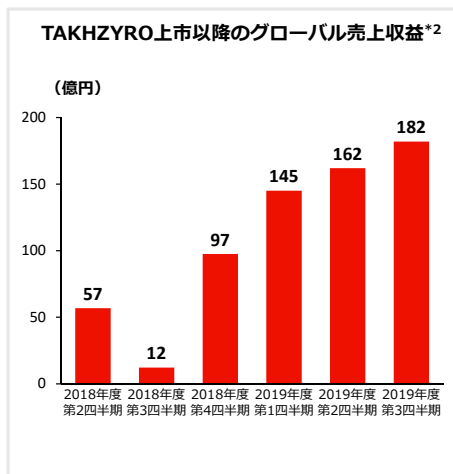
グローバルで2,100名以上の患者さんがTAKHZYROの投与を受け、  
強い立ち上がりが継続

米国:

- 有効性プロファイルにより遺伝性血管性浮腫に対する基礎的治療薬としてTAKHZYROの位置付けを確立
- すべての処方医、とりわけ専門医の元で強い立ち上がり
- 幅広い浸透
  - ~30%: FIRAZYRからの切替え
  - ~30%: CINRYZEからの切替え
  - ~40%: 新規患者またはタケダ製品以外からの切替え

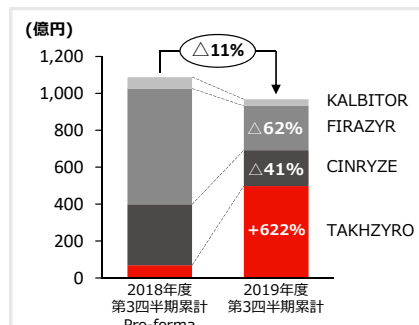
その他の地域:

- ドイツ・オーストリア・ギリシャでの強い立ち上がり、フィンランド・ノルウェー・スウェーデン・スイス・英国でも順調な立ち上がり
- 保険償還の交渉が進行中: イングランドにおいてNICEの肯定的見解を獲得
- フランスにおいて100名以上の患者がATU\*1を活用



遺伝性血管性浮腫

第3四半期累計 実質的な売上収益成長



- 2018年度の在庫積み増し、CINRYZE投与対象患者の減少およびFIRAZYRの独占販売期間終了の影響により、FIRAZYRおよびCINRYZEが減少

\*1. Temporary Authorisation for Use (ATU) は、フランスにおいてアンメット・メディカル・ニーズが高い場合に、発売前の医薬品へ早期にアクセスすることを可能にした制度。  
\*2. 旧Shire社の売上収益を含む。2018年度第2および第3四半期の売上収益を期中(2018年4月~2019年3月)平均レート111円/ドルで円貨換算(なお、重要な差異は認められなかった)  
注: 売上収益の絶対値は実績為替レート(財務ベース)、対前年比は実質ベースのpro-forma成長を示す。2018年度第3四半期累計pro-formaは、2018年度第3四半期累計(4-12月)の武田薬品売上収益(事業売却等を調整)と、2018年度(2018年4月~2019年3月)の年間平均レート(1米ドル111円)で円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた(なお、重要な差異は認められなかった) 同期間の旧Shire社売上収益(事業売却等を調整)の合計。

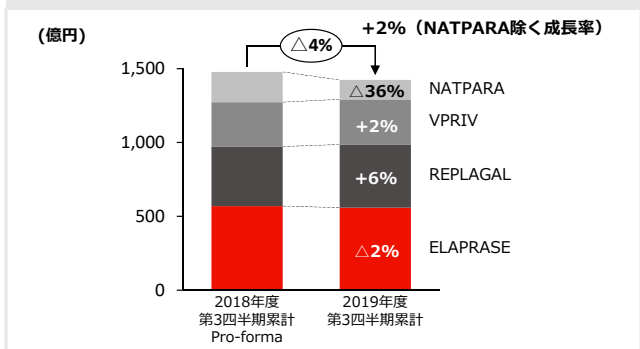


希少疾患

# 希少代謝性疾患では米国でのNATPARA®回収影響を除き安定した成長 希少血液疾患における競合の影響は想定通り

希少代謝性疾患

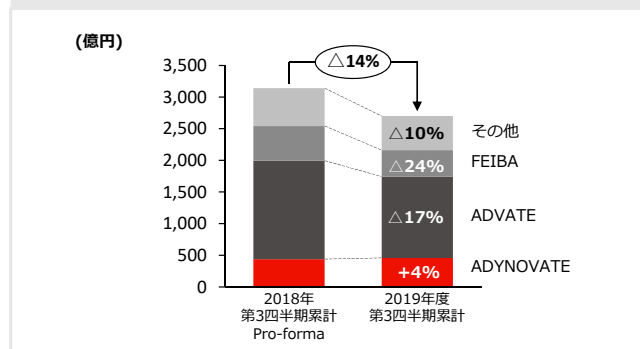
第3四半期累計 実質的な売上収益成長



- NATPARAの対前年比での売上減少は、米国において2019年9月に製品回収を行ったことが要因
- NATPARAの治療中断によって、生命を脅かす合併症などが発現するといったリスクの高い患者さんのために、特別使用プログラム(Special Use Program)を用意
- 当社はNATPARAの供給再開計画について米国食品医薬品局(FDA)と緊密に連携するも、追加データやFDAの見解に基づく追加の製材改良および製品試験が必要であるため、遅延する可能性が高くなった。その結果、2020年度は米国でのNATPARAの売上収益を見込んでいない

希少血液疾患

第3四半期累計 実質的な売上収益成長



- 発売国数増加でADYNOVATEは成長(米国外では現在25か国で発売中); PROPEL試験データは個別化出血予防の重要性を裏付ける
- ADVATEの減少は、ADYNOVATE拡大と従来型の標準的な半減期セグメントでの価格圧力増加が部分的に起因する
- ADVATEおよびADYNOVATEの競合の影響は国ごとに異なる
- FEIBAの減少は出血予防セグメントでの競合浸食によるが、米国においては安定してきている

注: 売上収益の絶対値は実績為替レート(財務ベース)、対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度第3四半期累計pro-formaは、2018年度第3四半期累計(4-12月)の武田薬品売上収益(事業売却等を調整)と、2018年度(2018年4月~2019年3月)の年間平均レート(1米ドル111円)で円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた(なお、重要な差異は認められなかった) 同期間の旧Shire社売上収益(事業売却等を調整)の合計。



血漿由来の免疫疾患治療

# 血漿分画製剤の免疫疾患治療領域の成長は免疫グロブリン皮下注射製剤とアルブミンが牽引

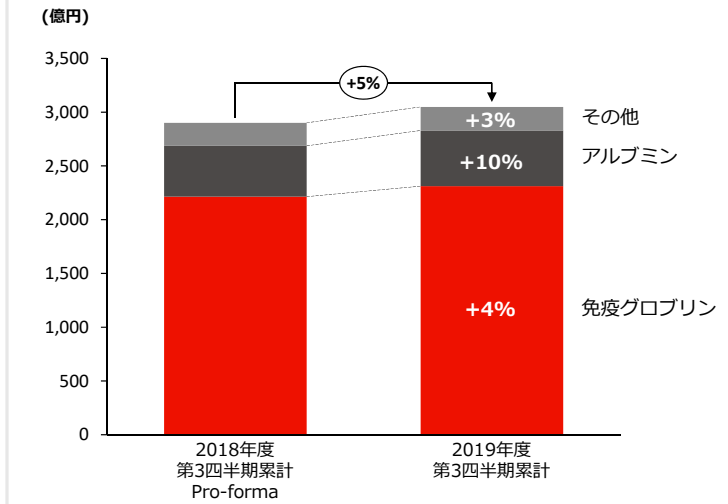
血漿由来の免疫疾患治療ポートフォリオ  
第3四半期累計 実質的な売上収益成長



- 免疫グロブリン製剤は、皮下注射製剤（SCIG）の継続的な成長により対前年同期+4%の成長
- 第3四半期の免疫グロブリン製剤売上収益は、対前年同期+7%で成長
- 当年度残りの期間を含め、今期1桁台後半の実質ベースの売上収益成長を見込む

血漿収集センターへの投資継続

- 現在、米国に118、米国外に31のセンターを保有。旧Shire社買収完了後の12ヶ月間に27センターを増加
- 血漿分画製剤の供給および製造能力を今後5年間で65%以上増加させるため、運営の効率化を図りつつ新規センターへの投資を継続する予定



注: 売上収益の絶対値は実績為替レート（財務ベース）、対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度第3四半期累計pro-formaは、2018年度第3四半期累計（4-12月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度（2018年4月～2019年3月）の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）同期間の旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。



オンコロジー

# オンコロジー ポートフォリオの強固な成長はニンラーロ®が牽引

オンコロジー ポートフォリオ  
第3四半期累計 実質的な売上収益成長\*1

NINLARO (ixazomib) capsules グローバルにおける成長継続& データの読み出しを予定

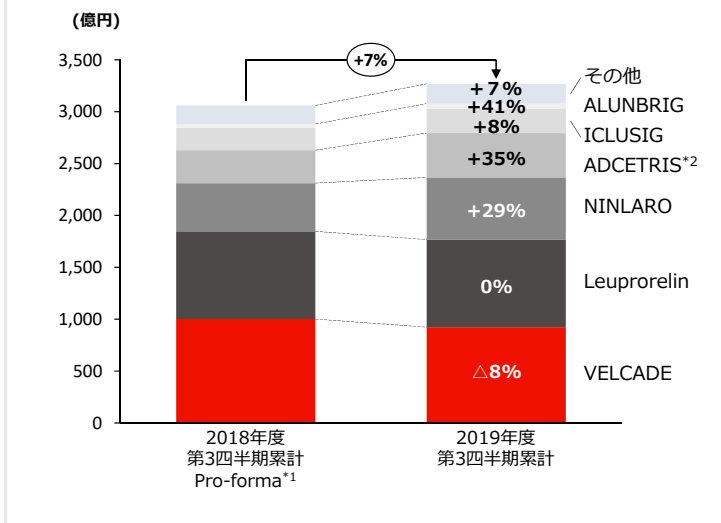
- 自家造血幹細胞移植未実施の初発の多発性骨髄腫の維持療法を対象とした臨床試験（TOURMALINE-MM4）において、主要評価項目（無増悪生存期間：PFS）を達成、データは今後の学会で公表予定
- 初発の多発性骨髄腫を対象とした臨床試験（TOURMALINE-MM2）のデータ読み出しを2020年前半に予定

ADCETRIS (brentuximab vedotin) 新規適応症への拡大

- 日本・ブラジル・韓国において、未治療のCD30陽性末梢性T細胞リンパ腫（PTCL）の適応症で承認取得、欧州・その他の市場で承認審査中
- 日本において、小児の再発・難治性のホジキンリンパ腫の適応症で承認取得
- ホジキンリンパ腫フロントラインの効能で、現在45ヶ国以上で承認

ALUNBRIG (BICICLINE) 継続して示されたALUNBRIGの優越性データ

- ALK陽性非小細胞肺癌一次治療を対象としたALUNBRIGの臨床第3相試験（ALTA-1L）に関して、長期データにおいてもクリゾチニブと比較して優越性を示した
- ALK陽性非小細胞肺癌一次治療のALUNBRIGに関して、米国・欧州における薬事承認を2020年度に見込む



\*1. 旧Shire社のオンコロジー事業売上収益は含まない。

\*2. ADCETRISはSeattle Geneticsより導入、北米外での販売権を保有。

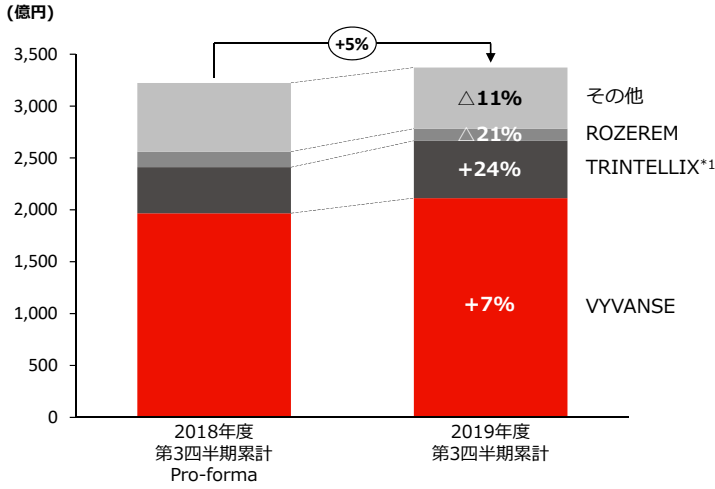
注: 売上収益の絶対値は実績為替レート（財務ベース）、対前年比は実質ベースのpro-forma成長率。2018年度第3四半期累計pro-formaは、2018年度第3四半期累計（4-12月）の武田薬品売上収益（事業売却等を調整）と、2018年度（2018年4月～2019年3月）の年間平均レート（1米ドル111円）で円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）同期間の旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。



ニューロサイエンス

ニューロサイエンスは新たな販売体制となった米国事業が牽引

ニューロサイエンス ポートフォリオ  
第3四半期累計 実質的な売上収益成長



販促活動の最適化が成長する  
米国市場における需要喚起

- 競合製品やジェネリック品の処方が進み、米国市場全体は拡大している。プログラムの最適化や遂行により、ブランド品市場におけるシェア獲得につなげる
- カナダでの立ち上がりやドイツでのElvanse Adult発売によるさらなる成長
- 日本において2019年12月に発売



市場シェアの増加により  
20%を超える成長

- 平均治療期間の伸びと合わせて、販売部門の最適化およびTrintellixで治療効果を得られそうな患者層の同定により、米国における市場シェアの伸びが継続
- 日本において2019年11月に発売

\*1. TRINTELLIXはLundbeck社より導入。米国と日本で共同販売権を保有。

注: 売上収益の絶対値は実績為替レート(財務ベース)、対前年比は実績ベースのpro-forma成長率。2018年度第3四半期累計pro-formaは、2018年度第3四半期累計(4-12月)の武田薬品売上収益(事業売却等を調整)と、2018年度(2018年4月~2019年3月)の年間平均レート(1米ドル111円)で円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた(なお、重要な差異は認められなかった) 同期間の旧Shire社売上収益(事業売却等を調整)の合計。



グローバルブランド14製品は+20%の成長率(第3四半期累計)

2019年度第3四半期累計 売上収益

2019年度第3四半期累計 売上収益

製品カテゴリー	製品名	2019年度第3四半期累計 売上収益		対前年	グローバルブランド
		(億円)	(百万米ドル)		
消化器系疾患	Entyvio (vedolizumab)	2,635	2,420	+35.4%	🌐
	Takecab	557	511	+25.4%	🌐
	Gattex (Telaprevir (TAP) original) for injection	469	431	+22.6%	🌐
	ALOFISEL	2	2	N/A (2018年8月上市)	🌐
希少疾患	TAKHZYRO (lanadelumab-lygi injection)	488	449	+622%	🌐
	ADYNOVATE (Adenovirus type 5 vaccine)	448	412	+4.4%	🌐
	Natpara	130	119	-35.5%	🌐
	elaprase (icukorsulfase)	524	481	-1.8%	🌐
	REPLAGAL (apixiban oral suspension)	385	354	+5.9%	🌐
	VPRIV (vaccinia virus)	284	261	+1.8%	🌐
血漿成分製剤	IMMUNOGLOBULIN	2,254	2,069	+4.4%	🌐
	GAMMAGARD LIQUID (Intravenous Gamma Globulin (Human)) 10%			+0.5%	🌐
	Kiovig (Intravenous Gamma Globulin (Human)) 10%			+20.6%	🌐
	HyQvia (Human Normal Immunoglobulin (HNI) Recombinant Human Hyaluronate)			+12.8%	🌐
	ALBUMIN/FLEXBUMIN*1	497	457	+9.8%	🌐
オンコロジー	NINLARO (ixazomib) capsules	581	533	+28.9%	🌐
	Acetris (brentuximab vedotin)	395	362	+34.5%	🌐
	ALUNBRIG (brigatinib)	51	47	+40.6%	🌐
ニューロサイエンス	Vyvanse	2,068	1,899	+7.4%	🌐
	Trintellix (vortioxetine)	543	499	+23.9%	🌐

14グローバルブランドの2019年度第3四半期累計売上収益合計: 8,364億円(77億米ドル) (+20%)

\*1. Albumin Glass, Flexbuminおよび献血アルブミンを含む。

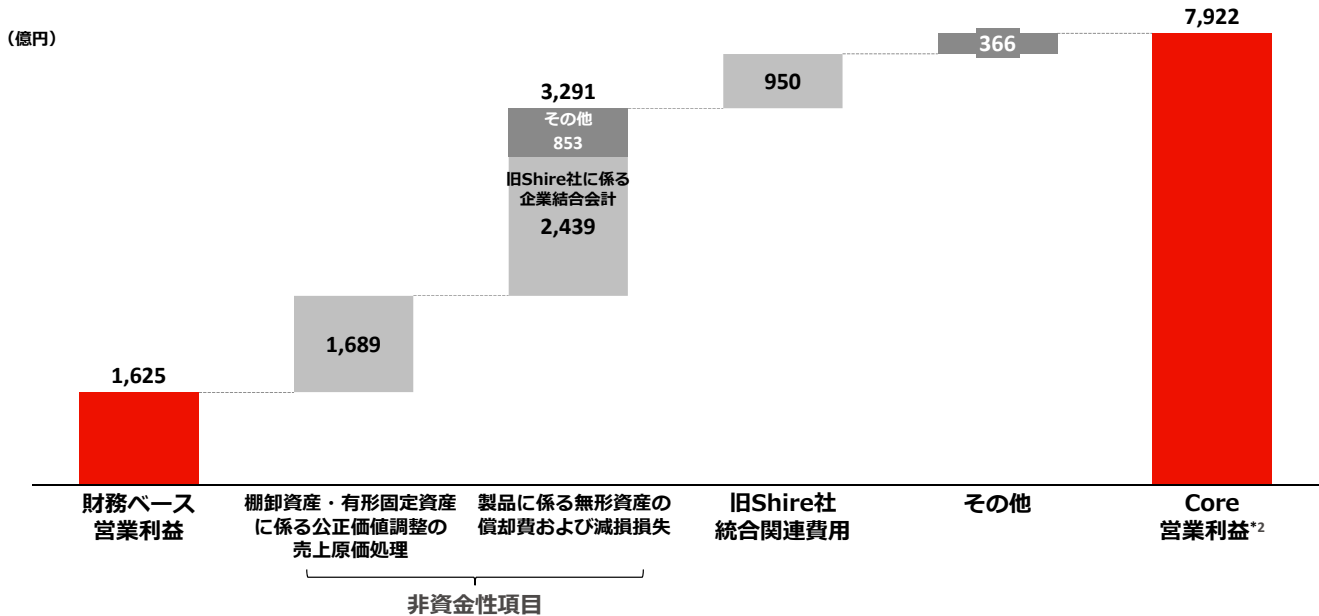
注: 売上収益の絶対値は実績為替レート(財務ベース)、対前年比は実績ベースのpro-forma成長率。2018年度第3四半期累計pro-formaは、2018年度第3四半期累計(4-12月)の武田薬品売上収益(事業売却等を調整)と、2018年度(2018年4月~2019年3月)の年間平均レート(1米ドル111円)で円貨換算しUS GAAPからIFRSへ組み替えた(なお、重要な差異は認められなかった) 同期間の旧Shire社売上収益(事業売却等を調整)の合計。2019年第3四半期の実績為替レートは1ドル=109円





# 力強いCore営業利益は 非資金性の企業統合会計上の費用およびその他の買収関連費用を調整したもの

財務ベース営業利益からCore営業利益への調整\*1



\*1. 調整表は40ページをご参照下さい。  
\*2. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は31ページをご参照下さい。

16



## 旧Shire社との統合は引き続き成功裏に進捗

旧Shire社の買収後12か月間、「One Takeda」として事業を運営

☑ 全従業員の約98%に新たなポジションの通知を完了、人材のリテンションは業界のベンチマークよりも良好

☑ 主要拠点の意思決定は全て完了し通達済。多機能拠点（チューリヒ、パノックバーン、ロンドン、ボストン）の移転は2019年末までに完了

100億米ドルのノン・コア資産売却に注力

☑ XIIDRAの譲渡が完了  
☑ TACHOSIL売却合意および中近東・アフリカ（NEMEA）ならびにロシア/CISにおける一部の一般用医薬品、ノン・コア資産の売却合意について公表

☑ さらなる潜在的な売却について交渉中

2021年度末までに年間20億米ドル（税引前）のコストシナジー目標を確認

☑ 統合によるコストシナジーおよび営業経費削減のターゲットに向けた確実な遂行の進捗管理を行うプラットフォームが稼働中

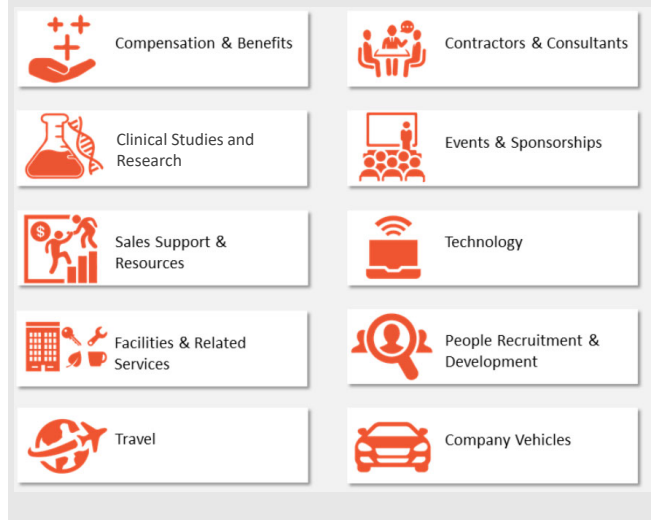
☑ シナジーは想定より早く実現、2020年度末までに目標の80%の実現を目指す（当初目標は70%）

17



# 統合によるコストシナジーおよび営業経費削減のターゲットに向けた確実な遂行

## シナジーパッケージKPIレポート



### 施設および関連サービス

- 67ヶ国における87%の営業拠点について意思決定済（146施設中127施設）
- 146施設のうち、2019年12月時点で36施設を閉鎖、2020年度末までにさらに施設を閉鎖する予定

### テクノロジー

- 20のグローバルIT基幹プロジェクトが実行フェーズに
- One Takeda ERP\*1テンプレートが11カ国で稼働
- アプリケーションを中央管理、これまでに280以上のアプリケーションを廃止

## TAKEDA BUSINESS SOLUTIONS

規模を活かし、最適化を推進

- ビジネスソリューションチームが最大限稼働し、ファイナンス・調達・税務・財務・人事・マスターデータをサポート
- 米国、日本、欧州およびカナダで推進するためグローバル拠点を統合

**4** つのRPA\*2「ボット」が自動化を推進、45万人・時間を節約

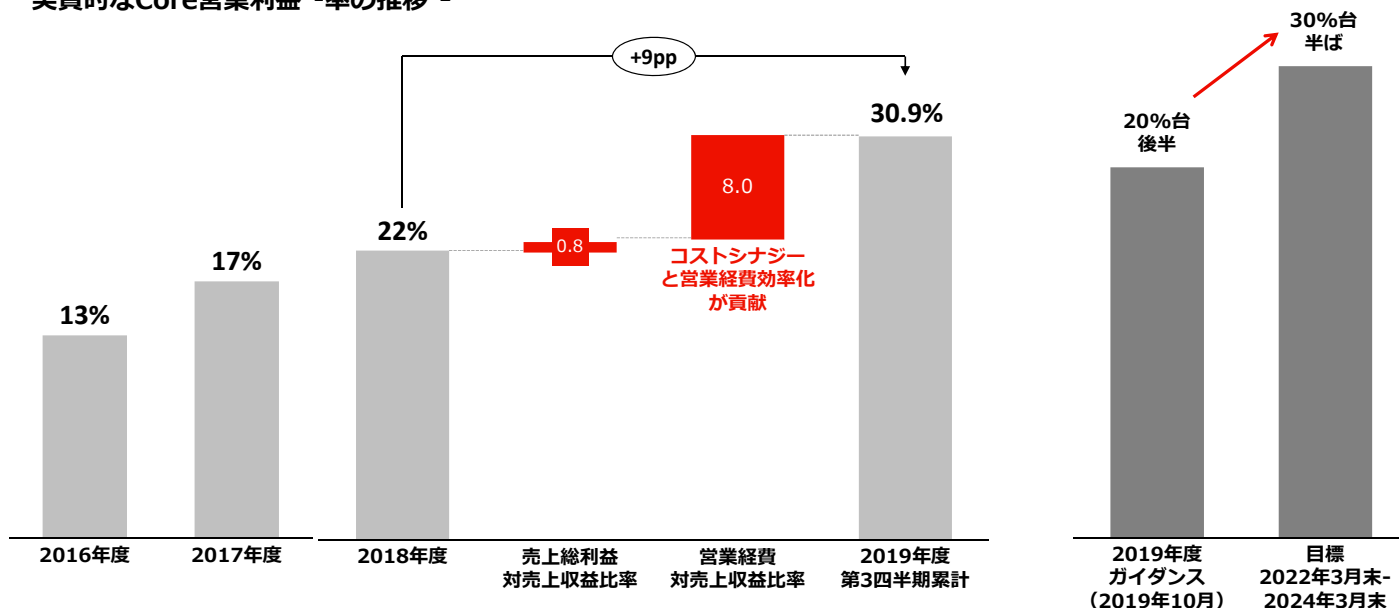
**2** つの自動化ソリューション稼働で為替ヘッジおよび消費税還付最適化を管理

\*1. ERP: エンタープライズ・リソース・プランニング  
\*2. RPA: ロボティック・プロセス・オートメーション



# コストシナジーおよび営業経費効率化が利益率目標に向けて寄与

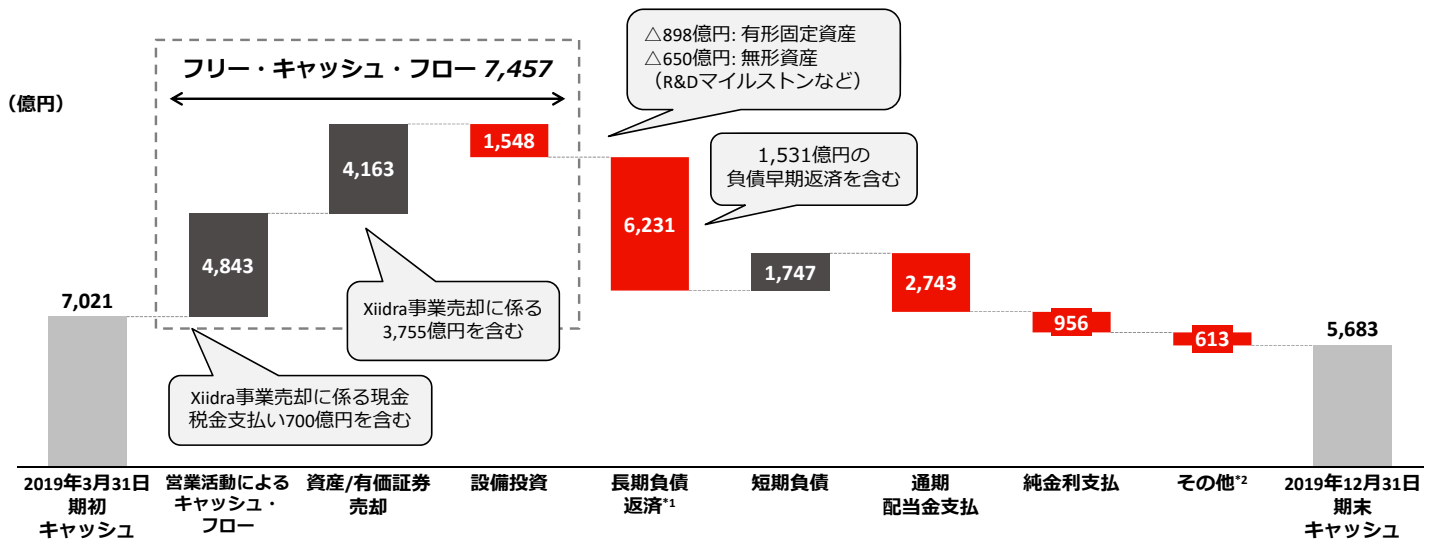
## 実質的なCore営業利益\*1率の推移\*2



\*1. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は31ページをご参照下さい。  
\*2. 調整表は40、44-46ページをご参照下さい。



## 2019年度第3四半期累計：潤沢なフリー・キャッシュ・フローは 通期配当金支払いおよび金利支払を十分賄い、多額の負債返済を可能に



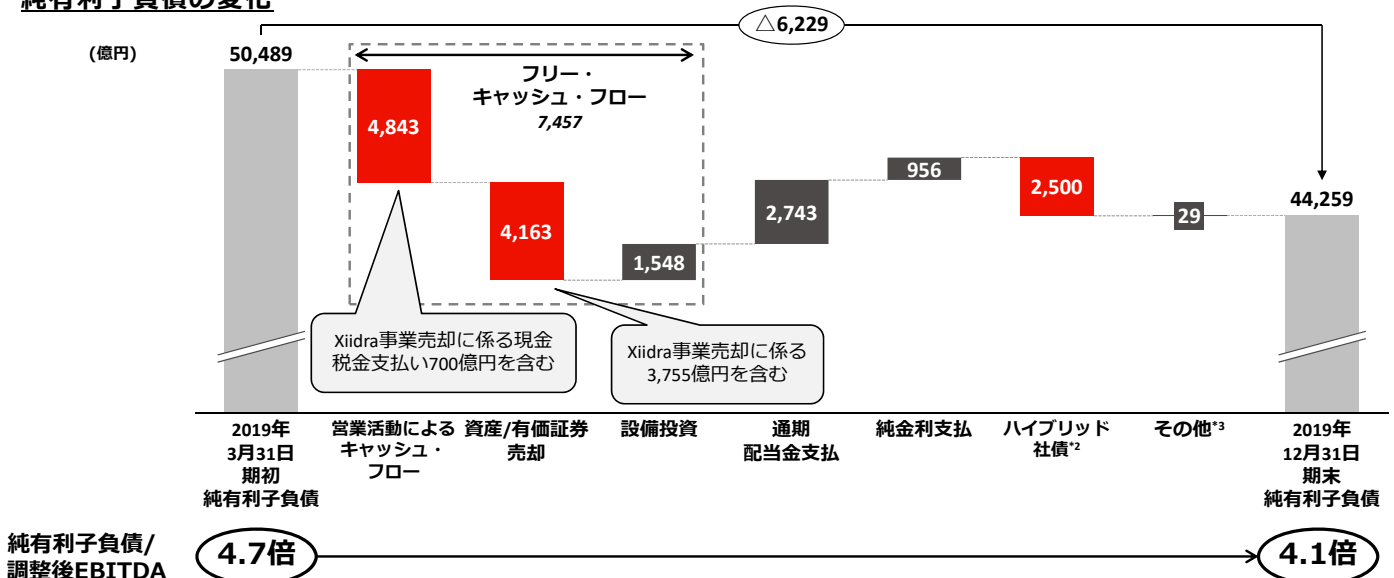
### 2019年度満期負債はすべて返済済み、2019年度内にさらなる満期予定負債はなし

\*1. 負債返済の項目はキャッシュ支払金額を記載。  
\*2. その他の項目はキャッシュに与える為替影響、リースにかかる費用、買取にかかる費用、条件付対価支払いを含む。



## 通期配当支払いおよびXIIDRA譲渡に係る税金支払い後、 純有利子負債/調整後EBITDA<sup>\*1</sup>が4.7倍から4.1倍へと急速にレバレッジが低下

### 純有利子負債の変化



\*1. 「調整後EBITDA」は、主に非資金性の項目、一過性費用を調整したもの。調整表は48-49ページをご参照下さい。  
\*2. 2019年6月に5,000億円のハイブリッド社債を発行し、既存のシニア短期ローンを借り換えたことで旧Shire社買収の資金調達のパーマネント化を完了。純有利子負債は格付け機関から認定される50%の資本性 (2,500億円) を含む。  
\*3. 負債簿価への資金性および非資金性調整を含む。非資金性の調整は、負債償却、円貨換算に係る為替影響を含む。注: 調整後EBITDA及び純有利子負債調整表48-49ページをご参照下さい。



## 2019年度 修正マネジメントガイダンス：実質的なCore EPS の上方修正

	前回 マネジメントガイダンス (2019年10月31日)	2019年度 第3四半期累計実績	修正後 マネジメントガイダンス (2020年2月4日)
実質的な売上収益の成長 <sup>*1</sup>	横ばいから僅かに増加	△1.2%	横ばいから僅かに増加
実質的なCore営業利益 <sup>*2</sup> 率 <sup>*3</sup>	20%台後半	30.9%	20%台後半
実質的なCore EPS <sup>*3</sup>	370-390円	359円	385-405円
1株当たり年間配当金	180円		180円

(注) 2019年度の修正マネジメントガイダンスには、既に公表している事業等の売却以外は織り込んでおりません。

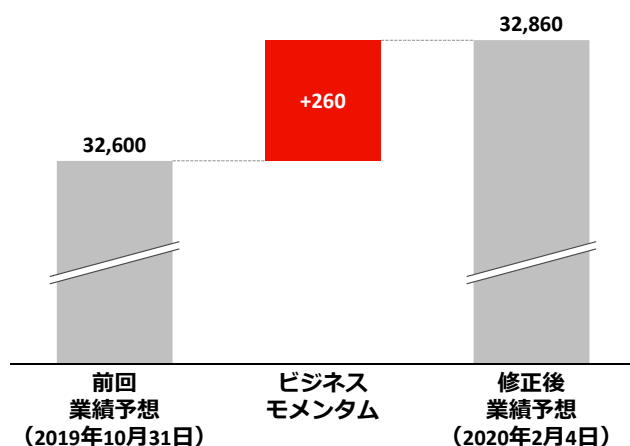
\*1. ベースライン3兆3,000億円(旧武田薬品と旧Shire社の2018年4月~2019年3月の12ヶ月の売上収益を、同期間平均レート111円/ドルで換算、合算し概算化したpro-formaベース；また旧武田薬品のマルチラプ社とテックプール社、TACHOSILの売上収益、旧Shire社のオンコロジープートフォリオとXIIDRAの売上収益を除く)と比較した同一為替レートをベースとした成長率(2018年度期中平均レート111円/ドルを適用)  
\*2. 前年度までCore Earningsとして呼称(定義変更なし)。定義は31ページをご参照下さい。  
\*3. 調整表は40ページをご参照下さい。

22

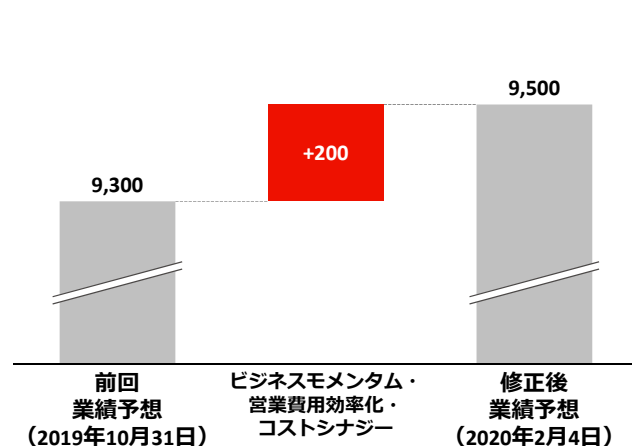


## 通期Core営業利益予想を9,500億円に上方修正

(億円) 2019年度 財務ベース売上収益 業績予想



2019年度 Core営業利益<sup>\*1</sup>業績予想<sup>\*2</sup>



注: 図は概要。修正後の2019年度通期業績予想には、すでに開示したものの以外の更なる事業売却の影響は含まれていない。  
\*1. 前年度までCore Earningsとして呼称(定義変更なし)。定義は31ページをご参照下さい。  
\*2. 調整表は51ページをご参照下さい。

23





# 取得対価の配分が完了し、平均償却期間の延長によるポジティブな損益計算書影響を含む資産価値評価を確認

## 取得対価の配分 (PPA) の結果

(億円)	2019年3月時点 PPA	2020年1月時点 PPA
のれん	30,874	31,655
無形資産	38,993	37,691
有形固定資産		
棚卸資産	8,260	7,518
その他の資産*1	6,845	6,996
社債及び借入金	11,202	11,243
繰延税金負債	-16,032	-16,032
その他の負債*1	-8,097	-6,575
	-9,911	-10,363

## 2019年度損益計算書影響は1,188億円\*2減少

- ☑ 旧シャイアー社関連無形資産償却費用は、評価項目の精査および償却期間（加重平均）の延長により、4,230億円から3,252億円\*3に引き下げ
- ☑ 棚卸資産の公正価値調整の売上原価処理費用は2,110億円から1,900億円\*3に引き下げ

## 旧Shire社PPAの2020年度以降の影響

- ☑ 2023年度まで年間約3,300億円\*3の無形資産償却費用を見込み、その後2027年度には約2,100億円\*3まで低下すると見込む。無形資産の償却年数（加重平均）は12年\*4、各製品の想定期間は3-21年に渡る
- ☑ 棚卸資産の公正価値調整の売上原価処理費用は2020年度に約860億円\*3、2021年度に約330億円\*3を見込む。加重平均では約2年

## これらの調整はCore営業利益\*5やキャッシュフローに影響を与えない

- \*1. XIIDRAとSHP647に関連する売却目的で保有する資産および売却目的で保有する資産に直接関連する負債を含む。
- \*2. 2019年10月31日（2019年度第2四半期決算）公表予測との比較。
- \*3. 1ドル=109円を想定。
- \*4. 2019年5月14日（2018年度第4四半期決算）では10年と開示。
- \*5. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は31ページをご参照下さい。



# 2019年度修正業績予想

	2019年度		対前回公表予想		増減 <sup>2</sup>
	前回公表予想 (2019年10月31日)	今回修正予想 (2020年2月4日)			
売上収益	32,600	32,860	+260	+0.8%	・ ビジネス・モメンタム
売上原価	N/D <sup>1</sup>	N/D <sup>1</sup>			・ 取得対価の配分 (PPA) 完了に伴う棚卸資産の公正価値調整の売上原価処理金額の減少 (210億円)
研究開発費	△4,840	△4,850	△10	△0.2%	
製品に係る無形資産償却費	△5,160	△4,200	+960	+18.6%	・ PPA完了に伴う無形資産に係る償却費の減少と平均償却期間の延長 (978億円)
製品に係る無形資産減損損失	△1,210	△1,010	+200	+16.5%	・ 業績予想の精査
その他の営業収益	240	330	+90	+37.5%	
その他の営業費用	△1,990	△2,450	△460	△23.1%	・ Shire社との統合の加速、製造の合理化
営業利益	△1,100	100	+1,200	-	・ 金融資産の再評価益 (257億円)
金融収益	N/D <sup>1</sup>	N/D <sup>1</sup>			
金融費用	△1,720	△1,720	-	-	
税引前当期利益	△2,900	△1,400	+1,500	+51.7%	
当期利益	△2,730	△1,620	+1,110	+40.7%	
EPS (円)	△175 円	△104 円	+71 円	+40.7%	
Core営業利益 <sup>3</sup>	9,300	9,500	+200	+2.2%	・ ビジネスモメンタム、費用の効率化とコストシナジーを反映
円/ドル	109 円	109 円	+1 円		
円/ユーロ	121 円	122 円	+1 円		

- \*1. 非開示 (Not Disclosed)
- \*2. 詳細は50ページをご参照下さい。
- \*3. 調整表は51ページをご参照下さい。



## 財務目標に向けた進捗

### 売上収益成長

- ☑ 2019年度通期の実質的な売上収益\*1ガイダンス「横ばいから僅かに増加」を確認  
14グローバル製品、12のWave 1パイプラインが持続的な売上収益成長へと導く

### シナジー・ 利益率

- ☑ 2020年度終了までにシナジー目標20億米ドルの80%を達成を目指す  
実質的なCore営業利益率\*2の中期目標 “30%台半ば” へ向けた順調な進捗

### 資産売却

- ☑ ノン・コア資産売却について100億米ドルの売却計画を遂行中  
現在までに公表された4つの売却で約55%が完了

### 急速な レバレッジ低下

- ☑ 2019年12月末時点の純有利子負債/調整後EBITDA\*3は4.1倍；  
2022年3月末から2024年3月末までに2倍の目標へ向けた急速な進捗

### 株主還元

- ☑ 1株当たり年間配当金180円の確立された配当方針

\*1. ベースライン3兆3,000億円（旧武田薬品と旧Shire社の2018年4月～2019年3月の12ヶ月の売上収益を、同期間平均レート111円/ドルで換算、合算し概算化したpro-formaベース；また旧武田薬品と旧Shire社の事業売却等を除く）と比較した同一為替レートをベースとした成長率（2018年度期中平均レート111円/ドルを適用）  
\*2. 前年度まで実質的なCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は31ページをご参照下さい。  
\*3. 調整表は48-49ページをご参照下さい。

## 質疑応答



クリストフ・ウェバー  
代表取締役社長 CEO



アンドリュー・プランプ  
リサーチ&開発  
プレジデント



コスタ・サルウコス  
チーフ フィナンシャル  
オフィサー



岩崎 真人  
ジャパン ファーマ  
ビジネス ユニット  
プレジデント



**Better Health, Brighter Future**

**A Global, Values-Based, R&D-Driven  
Biopharmaceuticals Leader**



# APPENDIX



## 投資家向け開催予定イベント

2019年度 決算発表

5月13日（水）

東京

## Coreと「実質的な成長」の定義

当社は、事業の計画策定および業績評価において、「**実質的な成長**（Underlying Growth）」の概念を採用しております。

「**実質的な成長**」は、当期と前年同期（四半期もしくは年間）の業績を共通の基準で比較するものであり、マネジメントによる業績評価に使用されています。これら共通の基準で比較される業績は、為替レートを一定として、事業等の売却影響およびその他の非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない（ノン・コア）事象による影響を控除し算定されます。当社は、この「**実質的な成長**」が、事業活動のパフォーマンスを表す共通の基準を提供するため、投資家に有用であると考え、「**Underlying Revenue Growth**」（**実質的な売上収益の成長**）、「**Underlying Core Operating Profit Growth**」（**実質的なCore営業利益の成長**）および「**Underlying Core EPS Growth**」（**実質的なCore EPSの成長**）を重要な財務指標としています。

なお、本指標は、国際会計基準(IFRS)に準拠したものではありません。

**実質的な売上収益**は、為替レートを一定として、財務ベースの売上収益に、報告期間における非定常的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整して計算します。

**実質的なCore営業利益**は、為替レートを一定として、Core営業利益\*に、報告期間における事業等の売却影響を調整して計算します。

Core営業利益\*は、純利益から、法人所得税費用、持分法にかかる投資損益、金融損益、その他の営業収益・その他の営業費用、製品に係る無形資産償却費や減損損失、および企業買収に係る会計処理の影響や買収関連費用など本業と関連のないその他の項目を控除して算出します。

\*2019年度第1四半期より“Core Earnings”を“Core営業利益”に名称変更しました。前述の通り、定義に変更はありません。

**実質的なCore EPS**の算定にあたっては、為替レートを一定として、純利益から、事業等の売却影響、およびCore営業利益の算出において控除された項目と営業利益以下の各科目のうち、重要性のある、非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない（ノン・コア）事象による影響を調整します。これらには、条件付対価に係る公正価値変動（時間的価値の変動を含む）影響などが含まれます。さらに、これらの調整項目に係る税金影響を控除した後、比較年度末の自社株式控除後の発行済株式総数で除して算定します。



## EBITDAと調整後EBITDAの定義

当社がEBITDA及び調整後EBITDAをお示しする理由は、これらの指標が証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行うに際して頻りに用いられるものであり、有用と考えられることにあります。また、調整後EBITDAは、変化に富み予測が困難であるが故に経営とは無関係な諸要素により不透明となり、業績に実質的な影響を与え得る、また、継続的に期間毎の業績を評価することに困難に思われる事業全体の動向を、投資家の皆様が把握する際に有用と考えられます。

EBITDA及び調整後EBITDAは、IFRSに基づく指標である営業利益及び当期利益等の業績指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。これらの指標は、他社において示されている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠けます。

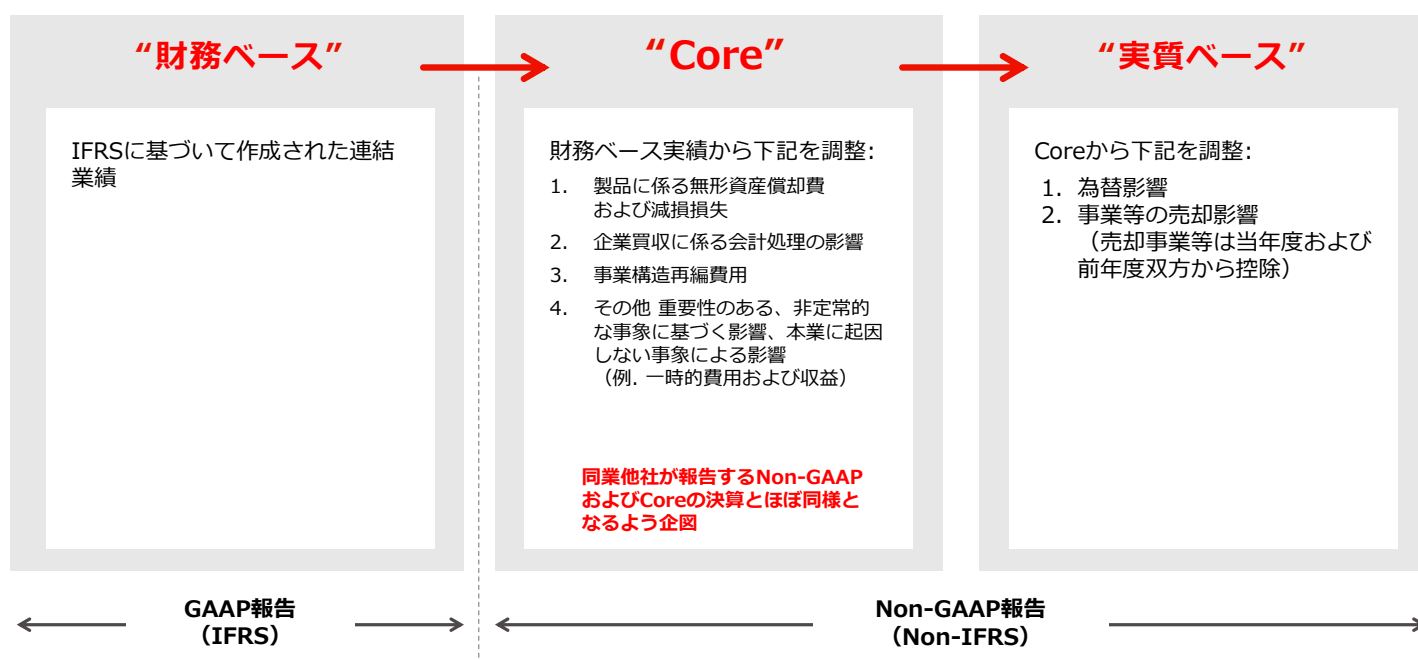
EBITDA及び調整後EBITDAの有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i)製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得るものです。また、(ii)業績評価において重視され得る一定の財務情報、例えば、企業買収や無形資産の償却による影響を除外しております。さらに、(iii)一定期間において継続して生じ得る一定の事項を除外しており、また、(iv)投資家において当社の長期的な観点からの経営には無関係ととらえる事項、例えば、事業売却の影響等を必ずしも除外しておりません。これらのIFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠する当期利益（損失）と同視してはならず、また、これらに代わるものとしてとらえてはなりません。投資家の皆様におかれましては、当社の財務諸表全体を把握し、当社業績、事業価値及び収益予想を評価する基礎となる指標としてはIFRS準拠財務指標に依拠し、また、EBITDA及び調整後EBITDAは補足的な指標として用いられるようお願い申し上げます。

### EBITDA及び調整後EBITDA

当社においては、EBITDAは、法人所得税費用、減価償却費及び償却費、並びに純支払利息控除前の純利益を指します。また、調整後EBITDAは、減損損失、その他の営業収益・費用（減価償却費及び償却費を除く）、金融収益・費用（純支払利息を除く）、持分法による投資損益及び企業結合会計影響や取引関連費用などの当社の中核事業に関連しないその他の項目を除外するように調整されたEBITDAを指します。

IFRSに準拠した指標の中では当期利益が最も類似します。IFRSにおいて最も類似した指標との照合については、本プレゼンテーションのスライド47、49をご参照ください。

## タケダの開示指標（定義変更なし）



## 2019年度 第3四半期（10-12月）連結業績（財務ベース）

財務ベースの利益は非資金性の費用の影響を受ける

(億円)	2018年度 第3四半期（10-12月）	2019年度 第3四半期（10-12月）	対前年同期
<b>売上収益</b>	<b>4,994</b>	<b>8,593</b>	<b>+72.1%</b>
売上総利益率	72.3%	67.4%	△4.8pp
営業費用	△2,314	△3,719	+60.8%
対売上収益比率	46.3%	43.3%	+3.0pp
償却費および減損損失	△311	△1,078	+246.5%
その他営業収益/費用 (net)	140	△504	N/M <sup>*1</sup>
<b>営業利益</b>	<b>1,125</b>	<b>493</b>	<b>△56.2%</b>
営業利益率	22.5%	5.7%	△16.8pp
税率	20.5%	273.5%	+253.1pp
<b>当期利益</b>	<b>378</b>	<b>△359</b>	<b>N/M<sup>*1</sup></b>
<b>EPS (円)</b>	<b>48円</b>	<b>△23円</b>	<b>△71円</b>

34 \*1. 比較検討不可能 (Not Meaningful)



## 2019年度 第3四半期（10-12月）連結業績（CORE）<sup>\*1</sup>

旧Shire社統合後もタケダの強固な収益力を実証：Core営業利益率は+2.6pp改善

(億円)	2018年度 第3四半期（10-12月）	2019年度 第3四半期（10-12月）	対前年同期
<b>売上収益</b>	<b>4,994</b>	<b>8,593</b>	<b>+72.1%</b>
売上総利益率	72.3%	72.3%	+0.0pp
営業費用	△2,283	△3,706	+62.4%
対売上収益比率	45.7%	43.1%	+2.6pp
<b>Core営業利益<sup>*2</sup></b>	<b>1,326</b>	<b>2,505</b>	<b>+88.9%</b>
Core営業利益率	26.6%	29.2%	+2.6pp
税率	23.4%	19.2%	-4.2pp
<b>Core当期利益</b>	<b>977</b>	<b>1,798</b>	<b>+84.0%</b>
<b>EPS (円)</b>	<b>125円</b>	<b>115円</b>	<b>△9円</b>

\*1. 調整表は41、43ページをご参照下さい。

\*2. 前年度までCore Earningsとして呼称（定義変更なし）。定義は31ページをご参照下さい。

35



## 2019年度 第3四半期累計の財務ベース実績

(億円)	2018年度 第3四半期累計	2019年度 第3四半期累計	対前年同期	
売上収益	13,800	25,195	+11,395	+82.6%
売上原価	△3,699	△8,416	△4,717	△127.5%
売上総利益	10,102	16,779	+6,677	+66.1%
対売上収益比率	73.2%	66.6%		△6.6pp
販売費及び一般管理費	△4,477	△7,117	△2,640	△59.0%
研究開発費	△2,289	△3,531	△1,242	△54.3%
製品に係る無形資産償却費	△719	△3,099	△2,381	△331.3%
製品に係る無形資産減損損失	△75	△192	△117	△155.1%
その他の営業収益	617	298	△319	△51.7%
その他の営業費用	△314	△1,513	△1,198	△381.0%
営業利益	2,844	1,625	△1,219	△42.9%
対売上収益比率	20.6%	6.5%		△14.2pp
金融収益	94	325	+231	+244.6%
金融費用	△415	△1,240	△824	△198.6%
持分法による投資損益	△440	△151	+289	+65.7%
税引前当期利益	2,084	560	△1,524	△73.1%
当期利益（親会社の所有者持分）	1,644	425	△1,219	△74.1%
非支配持分	△1	2	+3	-
当期利益	1,644	427	△1,216	△74.0%
基本的EPS（円）	210円	27円	△183円	△87.0%

## 2019年度 第3四半期（10-12月）の財務ベース実績

(億円)	2018年度 第3四半期 (10-12月)	2019年度 第3四半期 (10-12月)	対前年同期	
売上収益	4,994	8,593	+3,599	+72.1%
売上原価	△1,385	△2,799	△1,414	△102.1%
売上総利益	3,609	5,794	+2,185	+60.5%
対売上収益比率	72.3%	67.4%		△4.8pp
販売費及び一般管理費	△1,539	△2,492	△953	△61.9%
研究開発費	△775	△1,227	△452	△58.4%
製品に係る無形資産償却費	△242	△1,059	△817	△337.2%
製品に係る無形資産減損損失	△69	△19	+50	+72.6%
その他の営業収益	293	185	△109	△37.0%
その他の営業費用	△153	△689	△536	△350.0%
営業利益	1,125	493	△632	△56.2%
対売上収益比率	22.5%	5.7%		△16.8pp
金融収益	50	151	+101	+201.4%
金融費用	△219	△247	△28	△12.7%
持分法による投資損益	△480	△191	+289	+60.1%
税引前当期利益	476	206	△270	△56.7%
当期利益（親会社の所有者持分）	378	△359	△737	-
非支配持分	1	1	+0	+17.1%
当期利益	379	△358	△737	-
基本的EPS（円）	48円	△23円	△71円	-

## 財務ベース売上収益から実質的な売上収益への調整 2019年度第3四半期累計（対前年同期）

（億円）	2018年度*1 第3四半期累計	2019年度 第3四半期累計	対前年同期	
売上収益	13,800	25,195	+11,395	+82.6%
旧Shire社の売上収益	12,915	—		
売上収益（試算ベース）	26,715	25,195	△1,521	△5.7%
為替影響*2				+3.3pp
事業等の売却影響*3				+1.2pp
テックプール社およびマルチラブ社				+0.3pp
XIIDRAおよびTACHOSIL				+1.0pp
その他				△0.1pp
<b>実質的な売上収益の成長</b>				<b>△1.2%</b>

\*1 2018年度第3四半期累計の売上収益は試算ベースであり、米国会計基準に基づき報告された旧Shire社の2018年4-12月の売上収益を国際会計基準に一致させた上（重要な差異は認められなかった）、当社による買収以前の2018年8月に売却した旧Shire社のオンコロジー事業を除き、当該期間の実勢レートを適用して算出した売上収益を合計したものです。

\*2 為替影響は、2018年度および2019年度に、2018年度の実勢レート（1ドル=111円、1ユーロ=129円）を適用して算出しています。

\*3 事業等の売却影響では、主に、2018年度に売却した連結子会社であったテックプール社およびマルチラブ社にかかる2018年度第3四半期累計の売上収益、2019年7月に売却が完了したXIIDRAおよび2019年5月に売却に合意したTACHOSILにかかる2018年度第3四半期累計および2019年度第3四半期累計の売上収益を控除して調整しています。

## 財務ベース売上収益から実質的な売上収益への調整 2019年度第3四半期（10-12月）（対前年同期）

（億円）	2018年度*1 第3四半期 （10-12月）	2019年度 第3四半期 （10-12月）	対前年同期	
売上収益	4,994	8,593	+3,599	+72.1%
旧Shire社の売上収益	4,426	—		
売上収益（試算ベース）	9,420	8,593	△827	△8.8%
為替影響*2				+4.8pp
事業等の売却影響*3				+0.8pp
テックプール社およびマルチラブ社				—
XIIDRAおよびTACHOSIL				+0.8pp
その他				△0.0pp
<b>実質的な売上収益の成長</b>				<b>△3.1%</b>

\*1 2018年度第3四半期の売上収益は試算ベースであり、米国会計基準に基づき報告された旧Shire社の2018年10-12月の売上収益を国際会計基準に一致させた上（重要な差異は認められなかった）、当社による買収以前の2018年8月に売却した旧Shire社のオンコロジー事業を除き、当該期間の実勢レートを適用して算出した売上収益を合計したものです。

\*2 為替影響は、2018年度および2019年度に、2018年度の実勢レート（1ドル=111円、1ユーロ=129円）を適用して算出しています。

\*3 事業等の売却影響では、主に、XIIDRAにかかる2018年度第3四半期の売上収益と、2019年5月に売却に合意したTACHOSILにかかる2018年度第3四半期および2019年度第3四半期の売上収益を控除して調整しています。2018年度第3四半期のテックプール社とマルチラブ社、並びに2019年度第3四半期のXIIDRAについては、いずれも当該期間の期初までに売却が完了し売上収益が計上されなかったことから調整していません。



## 2019年度第3四半期累計 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整							Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益/費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響	スイス税制改革	テバ合併会社に係る企業結合会計影響	その他		為替影響	事業等の売却影響	
売上収益	25,195								25,195	752	△262	
売上原価	△8,416				1,689				△6,727	△232	40	
売上総利益	16,779				1,689				18,468	540	△222	
販売費及び一般管理費	△7,117			16	33				△7,068	△214		
研究開発費	△3,531			51	1				△3,479	△57		
製品に係る無形資産償却費	△3,099	661			2,439				-			
製品に係る無形資産減損損失	△192	192							-			
その他の営業収益	298		△190				△108		-			
その他の営業費用	△1,513		629	883					-			
営業利益	1,625	853	440	950	4,162		△108		7,922	249	△222	
対売上収益比率	6.5%								31.4%			30.9%
金融損益	△914			46	114				△997	91		
持分法損益	△151							218	67	△0		
税引前当期利益	560	853	440	996	4,277		109	△243	6,992	273	△222	
法人所得税費用	△133	△204	△26	△185	△662	△666	△33	522	△1,388	△117	51	
非支配持分	△2								△2	△0		
当期利益	425	649	414	811	3,614	△666	76	279	5,602	156	△170	
EPS (円)	27								360	11	△11	359
株式数 (百万)	1,557								1,557			1,555

40



## 2019年度第3四半期 (10-12月) 財務ベースからCore/Underlying Core への調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整							Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益/費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響	スイス税制改革	テバ合併会社に係る企業結合会計影響	その他		為替影響	事業等の売却影響	
売上収益	8,593								8,593	310	△50	
売上原価	△2,799				418				△2,382	△121	10	
売上総利益	5,794				418				6,212	208	△40	
販売費及び一般管理費	△2,492			2	10				△2,480	△95		
研究開発費	△1,227			△1	2				△1,226	△27		
製品に係る無形資産償却費	△1,059	211			848				-			
製品に係る無形資産減損損失	△19	19							-			
その他の営業収益	185		△77				△108		-			
その他の営業費用	△689		393	296					-			
営業利益	493	230	316	297	1,278		△108		2,505	67	△40	
対売上収益比率	5.7%								29.2%			28.6%
金融損益	△95			11	30			△239	△293	49		
持分法損益	△191							218	14	△0		
税引前当期利益	206	230	316	308	1,308		109	△252	2,226	49	△40	
法人所得税費用	△564	△93	△42	△54	△158	△103	△33	620	△427	△103	8	
非支配持分	△1								△1	△0		
当期利益	△359	136	274	254	1,150	△103	76	369	1,798	△54	△31	
EPS (円)	△23								115	△3	△2	110
株式数 (百万)	1,558								1,558			1,555

41



## 2018年度第3四半期累計 財務ベースからCoreへの調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					Core
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益／費用	シャイアー社買収関連費用	テバ合併会社に係る企業結合会計影響	その他	
売上収益	13,800						13,800
売上原価	△3,699						△3,699
売上総利益	10,102						10,102
販売費及び一般管理費	△4,477			110			△4,367
研究開発費	△2,289						△2,289
製品に係る無形資産償却費	△719	719					-
製品に係る無形資産減損損失	△75	75					-
その他の営業収益	617		△320		△297		-
その他の営業費用	△314		173	141			-
営業利益	2,844	794	△146	251	△297		3,446
対売上収益比率	20.6%						25.0%
金融損益	△321			181		17	△123
持分法損益	△440				521		81
税引前当期利益	2,084	794	△146	432	224	17	3,404
法人所得税費用	△440	△188	8	△87	△69	△0	△776
非支配持分	1						1
当期利益	1,644	606	△139	345	156	16	2,629
EPS (円)	210						336
株式数 (百万)	783						783

## 2018年度第3四半期 (10-12月) 財務ベースからCoreへの調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					Core
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業収益／費用	シャイアー社買収関連費用	テバ合併会社に係る企業結合会計影響	その他	
売上収益	4,994						4,994
売上原価	△1,385						△1,385
売上総利益	3,609						3,609
販売費及び一般管理費	△1,539			31			△1,508
研究開発費	△775						△775
製品に係る無形資産償却費	△242	242					-
製品に係る無形資産減損損失	△69	69					-
その他の営業収益	293		3		△297		-
その他の営業費用	△153		44	110			-
営業利益	1,125	311	47	140	△297		1,326
対売上収益比率	22.5%						26.6%
金融損益	△169			93		3	△72
持分法損益	△480				503		23
税引前当期利益	476	311	47	234	206	3	1,277
法人所得税費用	△97	△72	△13	△53	△69	5	△299
非支配持分	△1						△1
当期利益	378	239	34	181	138	8	977
EPS (円)	48						125
株式数 (百万)	784						784

## 2018年度 財務ベースから Core/Underlying Core への調整表 (旧武田薬品)

(億円)	財務ベース (注)	財務ベースからCoreへの調整								Core	Coreから実買ベースへの調整		Underlying Core (実買ベース)
		無形資産 に係る 償却費および 減損損失	その他の 営業利益/ 費用	シャイアー社 買収関連 費用	シャイアー社 に係る 企業結合会計 影響	テバ合弁会社 に係る 企業結合会計 影響	その他の 企業結合会計 影響	投資有価証券/ 固定資産 売却益	米国税制改革 による影響		その他	為替影響	
売上収益	17,880									17,880	△153	△104	
売上原価	△4,764									△4,764	19	23	
売上総利益	13,117									13,117	△134	△81	
販売費及び一般管理費	△6,184			238						△5,947	41	54	
研究開発費	△3,237									△3,237	111	4	
製品等に係る無形資産償却費	△954	954								-			
製品等に係る無形資産減損損失	△87	87								-			
その他の営業利益	1,612		△598					△886		△129			
その他の営業費用	△741		365	355						21			
営業利益	3,525	1,041	△233	593				△886		△108	17	△23	
	19.7%									22.0%			22.3%
金融損益	△518			181						23	31	3	
持分法損益	△439					535				96	1	-	
税引前当期利益	2,568	1,041	△233	774		535		△886		△85	50	△20	
法人所得税費用	△231	△255	50	△157		△164		302		△572	△17	8	
非支配持分	1									1	-	△4	
当期利益	2,337	787	△183	616		371		△584		△657	33	△15	
EPS (円)	243									280			346
株式数 (百万)	961									961			781

44 (注) 旧武田薬品で発生したShire社買収関連費用を含む。



## 2017年度 財務ベースから Core/Underlying Core への調整表 (旧武田薬品)

(億円)	財務ベース (注)	財務ベースからCoreへの調整								Core	Coreから実買ベースへの調整		Underlying Core (実買ベース)
		無形資産 に係る 償却費および 減損損失	その他の 営業利益/ 費用	シャイアー社 買収関連 費用	シャイアー社 に係る 企業結合会計 影響	テバ合弁会社 に係る 企業結合会計 影響	その他の 企業結合会計 影響	投資有価証券/ 固定資産 売却益	米国税制改革 による影響		その他	為替影響	
売上収益	17,705									17,705	△378	△595	
売上原価	△4,959							14		△4,945	43	181	
売上総利益	12,746							14		12,760	△335	△414	
販売費及び一般管理費	△6,281									△6,281	101	131	
研究開発費	△3,254									△3,254	113	10	
製品等に係る無形資産償却費	△1,261	1,261								-			
製品等に係る無形資産減損損失	40	△40								-			
その他の営業利益	1,694		△1,534					△160		-			
その他の営業費用	△1,266		1,160							105			
営業利益	2,418	1,221	△374					14	△160	105	△121	△273	
	13.7%									18.2%			16.9%
金融損益	76								△303	76	72	△2	
持分法損益	△322					400				78	△1	-	
税引前当期利益	2,172	1,221	△374			400	14	△463		△374	△49	△274	
法人所得税費用	△305	△359	158			△122	△5	149	△275	△38	9	61	
非支配持分	2									2	△0	△7	
当期利益	1,869	862	△216			278	10	△314	△275	143	△40	△219	
EPS (円)	239									302			268
株式数 (百万)	781									781			781

45



## 2016年度 財務ベースから Core/Underlying Core への調整表 (旧武田薬品)

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		Core営業利益から 営業利益 までの 科目の調整	条件付 対価の 時価評価	投資 有価証券 売却損益	企業結合 会計に係る その他の 影響	アリアド社 買収・統合 関連費用		為替影響	事業等の 売却影響	
売上収益	17,321						17,321	261	△415	
売上原価	△5,588						△5,588	△80	207	
売上総利益	11,733						11,733	181	△207	
販売費及び一般管理費	△6,191					32	△6,159	△116		
研究開発費	△3,123						△3,123	△36		
製品等に係る無形資産償却費	△1,125	1,125					-			
製品等に係る無形資産減損損失	△443	443					-			
その他の営業収益	1,435	△1,435					-			
その他の営業費用	△729	△697				32	-			
営業利益	1,559	829				64	2,451	29	△207	
対売上収益比率	9.0%						14.2%			13.2%
金融損益	△110		37	△28			△101	36		
持分法損益	△15				77		61	1	△55	
税引前当期利益	1,433	829	37	△28	77	64	2,411	66	△262	
法人所得税費用	△278	△345	△1	9	△23	△23	△662	5	62	
非支配持分	△6	△24					△29	1		
当期利益	1,149	461	36	△19	53	41	1,721	71	△201	
EPS (円)	147						220	9	△26	203
株式数 (百万)	781						781			781

## フリー・キャッシュ・フロー

(億円)	2018年度 第3四半期累計	2019年度 第3四半期累計	対前年同期	
当期利益	1,644	427	△1,216	△74.0%
減価償却費、償却費及び減損損失	1,243	4,729	+3,486	
運転資本増減 (△は増加)	△935	△154	+781	
法人税等の支払額	△256	△2,032	△1,776	
その他	414	1,873	+1,458	
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,110	4,843	+2,733	+129.5%
有形固定資産の取得による支出	△504	△898	△395	
有形固定資産の売却による収入	60	3	△58	
無形資産の取得による支出	△392	△650	△258	
投資の取得による支出	△121	△73	+47	
投資の売却、償還による収入	393	478	+85	
事業売却による収入 (処分した現金及び現金同等物控除後)	275	3,755	+3,480	
フリー・キャッシュ・フロー	1,823	7,457	+5,635	+309.2%

## 純有利子負債/調整後EBITDA

純有利子負債/調整後EBITDA倍率		キャッシュの純増減			
(億円)	2019年度 第3四半期累計	(億円)	2018年度 第3四半期累計	2019年度 第3四半期累計	対前年同期
現金および現金同等物 <sup>*1</sup>	5,683	営業活動によるキャッシュ・フロー	2,110	4,843	+2,733 +129.5%
貸借対照表上の負債簿価	△52,218	有形固定資産の取得による支出	△504	△898	
ハイブリッド社債の50%資本性認定	2,500	有形固定資産の売却による収入	60	3	
為替調整 <sup>*2</sup>	△225	無形資産の取得による支出	△392	△650	
有利子負債 <sup>*3</sup>	△49,942	投資の取得による支出	△121	△73	
<b>純有利子負債</b>	<b>△44,259</b>	投資の売却、償還による収入	393	478	
		事業取得による支出	△667	△46	
		事業売却による収入	275	3,755	
		拘束性預金の預入による支出	△15,814	-	
		短期借入金の純減少額	△5	△3,252	
		長期借入金の返済による支出	-	△600	
<b>純有利子負債/調整後EBITDA倍率</b>	<b>4.1 x</b>	社債の発行による収入	15,814	4,962	
		社債の償還による支出	-	△5,631	
		配当金の支払額	△1,358	△2,743	
		その他	297	△1,358	
<b>調整後EBITDA</b>	<b>10,809</b>	現金の増減額 (△は減少)	89	△1,211	△1,300 -

<sup>\*1</sup> 各期末日の翌日から1年以内に償還期限の到来する短期投資を含む。

<sup>\*2</sup> 調整後EBITDA計算と整合させるため、外貨建て負債の換算に用いる為替レートを月末レートから平均レートに変更して調整している。

<sup>\*3</sup> 流動・非流動の社債および借入金。2019年6月に5,000億円のハイブリッド債を発行、格付け機関から認定された50%の資本性である2,500億円を負債から控除。また、負債簿価への資金性および非資金性調整を含む。非資金性の調整には、負債償却と為替影響を含む。

## 当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整

(億円)	2019年度 第3四半期累計	2019年度 LTM <sup>*1</sup>
当期利益	427	△126
法人所得税費用	133	△449
減価償却費及び償却費	4,379	5,941
純支払利息	1,048	1,369
<b>EBITDA</b>	<b>5,987</b>	<b>6,735</b>
減損損失	350	371
その他の営業収益・費用 (減価償却費及び償却費を除く)	1,036	766
金融収益・費用 (純支払利息を除く)	△133	△111
持分法による投資損益	151	148
その他の調整項目		
Shire社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	1,618	2,439
Shire社買収に係る費用	14	142
その他の費用 <sup>*2</sup>	254	319
<b>調整後EBITDA</b>	<b>9,276</b>	<b>10,809</b>

<sup>\*1</sup> 2019年12月31日までの過去12ヶ月 (LTM: Last Twelve Months)

<sup>\*2</sup> 2019年度第1四半期より、株式報酬にかかる非資金性の費用の調整を含む。

## 2019年度Core営業利益調整項目とその他見通しの主な前提

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					合計	Core
		無形資産に係る 償却費 (旧武田薬品)	無形資産に係る 減損損失	その他の営業 収益/費用	シャイアー社 買収関連費用	シャイアー社に 係る企業結合 会計影響		
営業利益 (前回公表予想)	△1,100	930	1,210	290	1,530	6,440	10,400	9,300
増減	+1,200	+18	△200	+290	+80	△1,188	△1,000	+200
営業利益 (今回修正予想)	100	948	1,010	580	1,610	5,252	9,400	9,500
<b>Core営業利益調整項目</b>	<b>第3四半期累計</b>	<b>前回公表予想</b>	<b>増減</b>	<b>今回修正予想</b>	<b>増減理由</b>			
<b>シャイアー社買収関連費用</b>								
販売及び一般管理費・研究開発費・買収費用等	△67	△70	-	△70				
その他の営業費用・統合費用	△883	△1,460	△80	△1,540	統合の加速と製造の合理化			
	△950	△1,530	△80	△1,610				
<b>シャイアー社に係る企業結合会計影響</b>								
売上原価・棚卸資産の公正価値調整の売上原価処理	△1,618	△2,110	+210	△1,900	シャイアー社買収の取得対価の配分 (PPA) が完了したことに伴う遡及修正影響			
売上原価・有形固定資産の公正価値調整の償却	△72	△60	△15	△75	シャイアー社買収の取得対価の配分 (PPA) が完了したことに伴う遡及修正影響			
販売及び一般管理費・研究開発費	△34	△40	+15	△25	シャイアー社買収の取得対価の配分 (PPA) が完了したことに伴う遡及修正影響			
製品に係る無形資産償却費・シャイアー社買収関連	△2,439	△4,230	+978	△3,252	シャイアー社買収の取得対価の配分 (PPA) が完了したことに伴う遡及修正影響			
	△4,162	△6,440	+1,188	△5,252				
<b>その他の非資金性の費用</b>								
製品に係る無形資産償却費・旧武田薬品関連	△661	△930	△18	△948	為替の円安影響			
製品に係る無形資産減損損失	△192	△1,210	+200	△1,010	業績予想の精査			
<b>その他の営業収益/費用</b>								
その他の営業収益	298	240	+90	330	第3四半期に計上した保険金収益を含む			
その他の営業費用・シャイアー社統合費用を除く	△629	△530	△380	△910	プロジェクトコスト等			
	△332	△290	△290	△580				
合計	△6,296	△10,400	+1,000	△9,400				
<b>その他見通しの主な前提</b>	<b>第3四半期累計</b>	<b>前回公表予想</b>	<b>増減</b>	<b>今回修正予想</b>	<b>増減理由</b>			
<b>シャイアー社買収関連費用</b>								
金融費用・利息等	△642	△800	-	△800				
資本的支出	N/A	△1,800~△2,300	-	△1,800~△2,300				
有形固定資産の減価償却費及び無形資産償却費 (製品に係る無形資産償却費を除く)	△1,280	△1,500	-	△1,500				
調整後EBITDAに対する現金税金の税率 (事業売却を除く)	N/A	約20~23%	減少	10%台後半~ 20%台前半				



## 2019年度修正業績予想 財務ベースからCoreへの調整表

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整					Core
		無形資産に係る 償却費 (旧武田薬品)	無形資産に係る 減損損失	その他の営業 収益/費用	シャイアー社 買収関連費用	シャイアー社に 係る企業結合 会計影響	
売上収益	32,860						32,860
売上原価						1,900	
						75	
売上総利益						1,975	
販売費及び一般管理費					70	25	
製品に係る無形資産償却費	△4,200	948				3,252	-
製品に係る無形資産減損損失	△1,010		1,010				-
その他の営業収益	330			△330			-
その他の営業費用	△2,450			910	1,540		-
営業利益	100	948	1,010	580	1,610	5,252	9,500





## 経験豊富で多様性に富んだタケダ・エグゼクティブチーム

日本



**クリストフ・ウェバー**  
代表取締役社長 CEO



**コスタ・サルウコス**  
チーフ フィナンシャル  
オフィサー



**岩崎 真人**  
ジャパン ファーマ  
ビジネスユニット  
プレジデント



**平手 晴彦**  
コーポレート  
コミュニケーションズ &  
パブリックアフェーズ  
オフィサー



**大藪 貴子**  
コーポレート  
コミュニケーションズ &  
パブリックアフェーズ  
オフィサー



**中川 仁敬**  
グローバル ジェネラル  
カウンセル



**パドマ・  
ティルヴェンガダム**  
チーフ HR オフィサー



**古田 未来乃**  
コーポレートストラテジー  
オフィサー &  
チーフ オブ スタッフ

米国



**アンドリュー・  
ブランブ**  
リサーチ&デベロップメント  
プレジデント



**ラモナ・セケイラ**  
US ビジネス ユニット  
プレジデント



**テレサ・ピテッティ**  
グローバル オンコロジー  
ビジネス ユニット  
プレジデント



**ラジーヴ・ヴェンカヤ**  
グローバル ワクチン  
ビジネスユニット  
プレジデント



**ジェラード・グレコ**  
グローバル クオリティ  
オフィサー



**マルチェロ・アゴステイ**  
グローバル  
ビジネスデベロップメント  
オフィサー

スイス



**ジャイルズ・  
プラットフォード**  
EUCAN ビジネスユニット  
プレジデント



**カミラ・ソンドビー**  
チーフ ベイシエント  
バリュー & プロダクト  
ストラテジー オフィサー



**ジュリー・キム**  
プラスマ デライド  
セラピーズ ビジネスユニット  
プレジデント



**トマス・ウオスコスキー**  
グローバル  
マニュファクチャリング &  
サプライ オフィサー



**ムワナ・ルゴコ**  
チーフ エシックス &  
コンプライアンス  
オフィサー

シンガポール



**リカルド・マレック**  
グローバル  
ビジネスデベロップメント  
プレジデント



## ベスト・イン・クラスのガバナンスを有する取締役体制

### 社内取締役



**クリストフ・ウェバー**  
代表取締役社長 CEO



**岩崎 真人**  
取締役  
ジャパン ファーマ  
ビジネスユニット プレジデント



**アンドリュー・ブランブ**  
取締役  
リサーチ&デベロップメント  
プレジデント



**コスタ・サルウコス**  
取締役  
チーフ フィナンシャル  
オフィサー

### 監査等委員会



**山中 康彦**  
取締役  
監査等委員

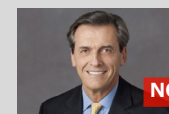
### 独立社外取締役\*1



**坂根 正弘**  
独立取締役  
取締役会議長  
指名委員会委員長



**オリビエ・ポユオン**  
独立取締役



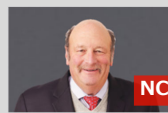
**ジャン=リュック・プテル**  
独立取締役



**イアン・クラーク**  
独立取締役



**藤森 義明**  
独立取締役



**スティーブン・ギリス**  
独立取締役



**国谷 史朗**  
独立取締役



**志賀 俊之**  
独立取締役



**初川 浩司**  
独立取締役  
監査等委員会委員長



**東 恵美子**  
独立取締役  
監査等委員  
報酬委員会委員長



**ミシェル・オーシンガー**  
独立取締役  
監査等委員

- CB** 取締役会議長
- NC** 独立社外取締役\*1
- NC** 指名委員会\*2
- CC** 報酬委員会

\*1. 東京証券取引所の有価証券上場規定の定義によるもの  
\*2. クリストフ・ウェバーは指名委員会にオブザーバーとして参加



# 2024年度末までの上市が目標のウェーブ1 革新的新規候補物質の豊かなパイプライン

承認目標 <sup>1</sup>	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2019年度ステージアップ および主要データの読み出し
<b>オンコロジー</b>		TAK-788 <sup>2</sup> 2L NSCLC with EGFR exon 20 insertion mutation TAK-924 <sup>2</sup> HR-MDS		TAK-007 Hematologic malignancies TAK-788 1L NSCLC with EGFR exon 20 insertion mutation	TAK-924 Unfit AML	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ TAK-007 Ph1/2試験の追加</li> <li>✓ TAK-924 Unfit AML Ph3試験開始</li> <li>✓ TAK-788 1L NSCLC Ph3試験開始</li> <li>✓ TAK-924 HR-MDS Ph2試験データ読み出し</li> </ul>
<b>希少疾患</b> 免疫 血液 代謝		TAK-620 CMV infect. in transplant TAK-609 Hunter CNS (IT)		TAK-611 MLD (IT) TAK-755 cTTP	TAK-607 <sup>3</sup> Complications of prematurity	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ TAK-607 早産児合併症 Ph2試験開始</li> <li>✓ TAK-611 異染色性白質ジストロフィー Ph2試験開始</li> <li>✓ TAK-755 免疫性血小板減少性紫斑病 Ph3試験開始</li> </ul>
<b>ニューロサイエンス</b>				TAK-935 DEE	Orexin2R-ag (TAK-925/994) Narcolepsy T1	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ TAK-994 Ph1試験開始</li> </ul>
<b>消化器系疾患</b>	TAK-721 EoE					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ TAK-721 EoE導入療法 Ph3試験データ読み出し</li> <li>✓ TAK-721 EoE維持療法 Ph3試験データ読み出し</li> </ul>
<b>ワクチン</b>		TAK-003 Dengue Vaccine				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ TAK-003 Ph3パート2試験データ読み出し</li> </ul>

- データ読み出しに基づく承認見込み時期
- Ph2データでの申請を想定した承認見込み時期
- 現在は非ヒト試験としてPh2試験を実施中。今後の中間解析の結果次第で本Ph2のデータを用いて申請した場合の承認見込み時期

少なくとも一つの効能が希少疾患を含む可能性あり  
2020年2月4日時点での見込み  
疾患名の略語については略語用語集をご参照下さい

# ウェーブ2にある早期開発段階の新規候補物質と次世代の基盤技術が 2025年度以降の持続的成長に寄与

承認目標 <sup>1</sup>	2025年度以降			2019年度ステージアップ および主要データの読み出し			
<b>オンコロジー</b>	TAK-164 GI malignancies TAK-573 R/R MM	TAK-252 Solid tumors TAK-981 Multiple cancers		細胞療法 および 免疫関連	標的化 先天性 免疫調節	次世代 チェック ポイント モジュレータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ TAK-252 固形がんPh1試験開始</li> </ul>
<b>希少疾患</b> 免疫 血液 代謝	TAK-079 <sup>2</sup> MG, ITP TAK-755 ITTP, SCD	TAK-754 HemA		遺伝子治療			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ TAK-755 iTTP Ph2試験開始</li> <li>✓ TAK-755 SCD Ph1/2試験開始</li> </ul>
<b>ニューロサイエンス</b>	TAK-341 Parkinson's Disease TAK-418 Kabuki Syndrome WVE-120101 Huntington's Disease	Orexin2R-ag Sleep Disorders TAK-653 TRD WVE-120102 Huntington's Disease	TAK-041 CIAS NS TAK-831 CIAS NS TAK-935 CRPS	遺伝子治療	その他の プラットフォーム RNA調節 抗体輸送媒体		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ TAK-925 OSA Ph1試験開始</li> <li>✓ TAK-935 CRPS Ph2試験開始</li> </ul>
<b>消化器系疾患</b>	Kuma062 Celiac Disease TAK-954 POGD	TAK-101 Celiac Disease TAK-906 Gastroparesis	TAK-018 Crohn's Disease (post-op and ileitis) TAK-951 Nausea & vomiting	TAK-671 Acute Pancreatitis	遺伝子治療	マイクロ バイオーム 細胞療法	
<b>ワクチン</b>	TAK-214 Norovirus Vaccine TAK-426 Zika Vaccine	TAK-021 EV71 vaccine					

- データ読み出しに基づく承認見込み時期
- TAK-079は希少疾患の重症筋無力症および免疫性血小板減少性紫斑病で開発の予定（患者投与開始は2019年度下期の見込み）

- ✓ 2019年4月1日以降のステージアップ/追加
- ✓ 2019年10月31日決算発表以降のステージアップ/追加

少なくとも一つの効能が希少疾患を含む可能性あり  
2020年2月4日時点での見込み  
疾患名の略語については略語用語集をご参照下さい

# 承認済薬剤プログラムの価値最大化

	PHASE 1 & 2	PHASE 3	申請	2019年度のステータスアップ	
<b>オンコロジー</b>	<b>ALUNBRIG*</b> ALK inhibitor ALK+NSCLC (JP)  <b>ICLUSIG*</b> BCR-ABL inhibitor TKI res. chronic phase CML (US)  <b>ALUNBRIG*</b> ALK inhibitor 2L ALK+NSCLC 2 <sup>nd</sup> gen TKI (GL)	<b>NINLARO*</b> Proteasome inhibitor R/R MM triplet Tx (GL)  <b>NINLARO*</b> Proteasome inhibitor R/R MM doublet Tx (US, EU, JP)  <b>NINLARO*</b> Proteasome inhibitor ND MM (GL)  <b>ICLUSIG*</b> BCR-ABL inhibitor FL Ph+ ALL (US)  <b>ALUNBRIG*</b> ALK inhibitor 1L ALK+NSCLC (JP, US, CN)  <b>ALUNBRIG*</b> ALK inhibitor 2L ALK+NSCLC 12H with alectinib (GL)  <b>Cabozantinib</b> Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 1L RCC (JP)	<b>NINLARO*</b> Proteasome inhibitor ND MM (GL)  <b>NINLARO*</b> Proteasome inhibitor Maint. ND MM no SCT (GL)  <b>NINLARO*</b> Proteasome inhibitor name. ND MM post-SCT (US, EU, CN)  <b>ALUNBRIG*</b> ALK inhibitor 1L ALK+NSCLC (JP, US, CN)  <b>ALUNBRIG*</b> ALK inhibitor 2L ALK+NSCLC 12H with alectinib (GL)  <b>Cabozantinib</b> Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 1L RCC (JP)	<b>Niraparib</b> ●● GlovoSmithKline PARP 1/2 inhibitor Ovarian cancer – maint. (JP)  <b>Niraparib</b> ●● GlovoSmithKline PARP 1/2 inhibitor Ovarian cancer – salvage (JP)  <b>Cabozantinib</b> ● Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 2L HCC (JP)  <b>ADCETRIS*</b> Seattle Genetics CD30 ADC R/R sALCL (CN)  <b>ADCETRIS*</b> Seattle Genetics CD30 ADC 1L PTCL (EU)  <b>Cabozantinib</b> Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 2L RCC (JP)  <b>ALUNBRIG*</b> ALK inhibitor 1L ALK+NSCLC (EU)  <b>NINLARO*</b> Proteasome inhibitor Maint. ND MM post-SCT (JP)	✓ ADCETRIS 1L PTCL 申請 (欧州) ✓ NINLARO NDMM transplant 申請 (日本) ✓ Cabozantinib 2L RCC 申請 (日本) ✓ ALUNBRIG Ph3 H2H alectinib 開始 ✓ ALUNBRIG Ph2 2 <sup>nd</sup> gen TKI 開始 ✓ Niraparib ovarian salvage 申請 (日本) ✓ Niraparib ovarian maint. 申請 (日本) ✓ Cabozantinib 2L HCC 申請 (日本)
<b>消化器系疾患</b>	<b>ENTYVIO*</b> o487 mAb Pediatric UC/CD (US)	<b>GATTEX</b> GLP-2R agonist Adult-SBS (JP)  <b>ENTYVIO*</b> o487 mAb GVHD Prophylaxis (EU, JP)  <b>ALOFISEL*</b> mesenchymal stem cells Perianal Fistulas in CD (US, JP)  <b>ENTYVIO*</b> o487 mAb SubQ CD (US, JP)	<b>GATTEX</b> GLP-2R agonist Pediatric-SBS (JP)  <b>ENTYVIO*</b> o487 mAb SubQ CD (US, JP)	<b>ENTYVIO*</b> o487 mAb Crohn's Disease (CN)  <b>ENTYVIO*</b> o487 mAb SubQ UC (US, EU, JP)  <b>ENTYVIO*</b> o487 mAb SubQ CD (EU)  <b>Vonoprazan</b> PPI Prev. of L-ASA ulcers (JP)	✓ ENTYVIO sc UC 申請 (CRL受領) ✓ ENTYVIO CD 申請 (中国) ✓ ENTYVIO UC 申請 (中国) ✓ ALOFISEL Ph3 CPF 開始 ✓ Vonoprazan L-ASA ulcer prevention 申請 (日本)
<b>希少疾患</b>	<b>NATPARA</b> PTH replacement Hypothyroidism (JP)	<b>TAKHZYRO</b> Anti-kallikrein mAb HAE pediatric (GL)  <b>TAKHZYRO</b> Anti-kallikrein mAb HAE (JP)  <b>OBIZUR</b> Ipsen FVIIa replacement CHAWI (US, EU)  <b>VONVENDI</b> vWF replacement vWD Prophylaxis  <b>VONVENDI</b> vWF replacement vWD Pediatric  <b>ADYNOVATE</b> Pediatric Hema (EU)	<b>TAKHZYRO</b> Anti-kallikrein mAb HAE prophylaxis (CN)  <b>VONVENDI</b> vWF replacement vWD (JP)	✓ TAKHZYRO Ph3 in HAE 小児 開始 ✓ TAKHZYRO Ph3 in HAE 開始 (日本)	
<b>ニューロサイエンス</b>		<b>BUCCOLAM</b> GABA Allosteric Modulator Status Epilepticus (JP)			
<b>血漿分画製剤</b>		<b>CINRYZE</b> PD C1 Esterase inhibitor HAE prophylaxis (JP)  <b>HYQVIA</b> Halozyme IgG 10% + Recombinant Human Hydrolase C1DP  <b>HYQVIA</b> Halozyme IgG 10% + Recombinant human Hydrolase Pediatric PID (US)			

- ✓ 2019年4月1日以降のステータスアップもしくは追加
- ✓ 2019年10月31日決算発表以降のステータスアップもしくは追加
- オフアンドラッグ (希少疾病医薬品) 指定 (いずれかの開発地域もしくは効能で指定を受けたもの)
- 申請が可能な臨床第2相試験

56

2020年2月4日時点のパイプライン。地域の略語: GL = グローバル(米国、欧州、日本、中国)。全てのパイプラインを示している訳ではありません。異なる疾患領域でも開発を実施していることがあります。疾患名の略語については略語用語集をご参照ください。

## イノベーションの次なるウェーブ： 2019年度に予定される新規候補物質パイプラインの主要イベント

	作用機序	疾患/事業領域	予定されるイベント	19年度	コメント	
<b>ウェーブ1</b>	TAK-924 (pevonedistat)	NAE 阻害薬	オンコロジー	骨髄異形成症候群 ビボタルPh2試験 データ読み出し	H1	✓ データの読み出しがなされ、来たる学術会議での発表を予定
	TAK-788	EGFR/HER2阻害薬	オンコロジー	未治療のEGFR exon 20挿入変異を有する非小細胞肺がん Ph3試験開始	H1	✓ 2019年度下期に開始
	TAK-007	CD19 CAR-NK	オンコロジー	少なくとも1つの革新的ガン免疫細胞療法へのヒトへの初回投与への進捗	H2	✓ CD19 CAR-NKプログラムが臨床ポトフォリオに追加
	TAK-755	ADAMTS13 酵素補充	希少疾患	先天性血栓性血小板減少性紫斑病 Ph3試験再開	H2	✓ 追加効能として免疫性血栓性血小板減少性紫斑病のPh2試験、鎌状赤血球症のPh1/2試験を開始
	TAK-609	イズロン酸-2-スルファターゼ補充 (脳腔内投与)	希少疾患	ハンター症候群および認知障害 Ph3試験 データ読み出し (2年間の延長試験)	H1	➡ 3年間延長試験の追加解析を実施中、結果は2020年度上期に得られる予定
	TAK-721	粘膜付着性局所コルチステロイド	消化器系疾患	好酸球性食道炎Ph3試験データ発表	H2	✓ 米国消化器病学会にて12週間Ph3治療試験データを発表
	TAK-925	オレキシン2R アゴニスト	ニューロサイエンス	R&D Dayでオレキシン2Rアゴニストプログラムのアップデート	H2	✓ TAK-925は1型ナルコレプシーや他の睡眠障害治療の可能性で早期POCを達成。経口OX2RであるTAK-994は1型ナルコレプシーで試験進行中
TAK-003	Dengue熱ワクチン	ワクチン	Dengue熱ワクチンとしての申請可否の判断	H2	➡ Ph3試験のパート1・パート2のデータを2019年度11月開催の米国熱帯医学会(ASTMH)で発表、2020年度申請予定	
<b>ウェーブ2</b>	TAK-573	抗CD38抗体と活性減弱サイトカインとの融合蛋白	オンコロジー	再発/難治性多発性骨髄腫 POC検証試験データ読み出し	H1	➡ 薬理学データから新規のがん免疫療法としての作用機序を確認、POC解析が進行中。多発性骨髄腫に対する併用試験を2020年度上期に開始予定、固形がんに対するPh1試験は2019年12月に開始
	TAK-676	STING アゴニスト	オンコロジー	全身性静脈内投与 Ph1試験開始	H1	➡ 臨床試験デザインを最適化し、Ph1試験を開始する地域を変更。試験開始は2020年度第1四半期の見込み
	TAK-748	第IX因子遺伝子治療	希少疾患	血友病B Ph1試験開始	H2	
<b>その他</b>	TIMP-Glia (TAK-101) / Kuma062	免疫寛容誘導/グルテン分解酵素	消化器系疾患	セリアック病 POC検証試験 データ読み出し	H1	✓ TIMP-GliaおよびKuma062ともにPOCを達成。TIMP-Gliaのデータは欧州消化器病週間 (UEG Week) 2019年コンファレンスにて発表。全世界のライセンスを獲得するオプション権を行使
	TAK-426	ジカウイルスワクチン	ワクチン	ジカウイルスワクチンとしての早期POC検証試験 データ読み出し	H2	
<b>その他</b>	TAK-823 (alisertib)	オーロラAキナーゼ阻害薬	オンコロジー	急性骨髄性白血病 (フロントライン応応) Ph3試験開始	H2	➡ 外部導出を通じたバリエーションを探る

57

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。タイムラインは現在想定しているものであり、変更の可能性がります。POC: Proof of Concept。疾患名の略語については略語用語集をご参照ください。



# 2019年度に予定される承認済薬剤における研究開発の主要イベント

品目	予定されるイベント	19年度	コメント
ADCETRIS	末梢性T細胞リンパ腫（フロントライン適応）欧州申請（Echelon-2 試験）	H1 ✓	
ALUNBRIG	ALTA-1L ALK陽性非小細胞肺癌（フロントライン適応）2回目の中間解析	H1 ✓	2回目の中間解析のデータを2019年11月のESMO Asia（欧州臨床腫瘍学会アジア大会）で発表、追加申請準備中
Cabozantinib	腎がん（セカンドライン適応）日本承認（日本における初めての承認）	H2	
NINLARO	アミロイドーシス Ph-3試験 データ読み出し	H1 →	主要評価項目は達成せず。副次評価項目の有望なデータを米国血液学会議（ASH）2019で発表
	移植未実施の多発性骨髄腫における維持療法Ph3試験 データ読み出し（TOURMALINE MM4試験）	H2 ✓	主要評価項目である無増悪生存期間（PFS）を達成、FDAとの協議を開始
TAKHZYRO	ブラジキニン介在性血管性浮腫 試験開始	H2	
ALOFISEL	クローン病に伴う肛門複雑瘻孔 米国ピボタル試験開始（ADMIRE II 試験）	H1 ✓	
	クローン病 日本承認	H1 ✓	
ENTYVIO	潰瘍性大腸炎 皮下投与製剤 米国承認	H2 →	米国FDAから受領した皮下投与製剤に対するCRL（審査完了報告通知）は、臨床での安全性・有効性データに関連するものではなく、皮下投与製剤のデザインやラベルに関する内容。本CRLの内容の解決に向けて取り組んでおり、2020年前半にタイムラインを更新できることを期待
	クローン病 皮下投与製剤 米国申請	H2 →	クローン病における皮下投与製剤の申請は、潰瘍性大腸炎のCRL受領を受けて保留中
GATTEX	短腸症候群 米国承認（小児適応）	H1 ✓	
TRINTELLIX	大うつ病 日本承認	H1 ✓	
GLASSIA /ARALAST	a1 アンチトリプシン欠損を伴う肺気腫 ピボタル試験開始	H2	

58

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。タイムラインは現在想定しているものであり、変更の可能性があります。疾患名の略語については略語用語集をご参照ください。



## 略語用語集

AD	Alzheimer's disease (アルツハイマー病)	DU	duodenal ulcer (十二指腸潰瘍)	iPSC	induced pluripotent stem cells (人工多能性幹細胞)	PK	pharmacokinetics (薬物動態)
ADC	antibody drug conjugate (抗体薬物複合体)	Dx	diagnosis (診断)	L-ASA	low dose aspirin (低用量アスピリン)	POC	proof of concept (概念実証)
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder (注意欠陥多動性障害)	EE H	erosive esophagitis healing (びらん性食道炎の治癒)	LBD	Lewy Body Dementia (レビー小体病)	POGD	post-operative gastrointestinal dysfunction (術後消化器機能障害)
ALK	anaplastic lymphoma kinase (未分化リンパ腫キナーゼ)	EE M	erosive esophagitis maintenance (びらん性食道炎の再発予防)	LB AML	Low-Blast Acute Myeloid Leukemia (低ブラスト急性骨髄性白血病)	POI	post-operative ileus (術後イレウス)
ALS	amyotrophic lateral sclerosis (筋萎縮性側索硬化症)	EFI	enteral feeding intolerance (経腸栄養不耐性)	LSD1	Lysine specific demethylase 1 (リジン特異的脱メチル化酵素1)	PTCL	peripheral T-cell lymphoma (末梢性T細胞リンパ腫)
AML	acute myeloid leukemia (急性骨髄性白血病)	EGFR	epidermal growth factor receptor (上皮増殖因子受容体)	LCM	lifecycle management (ライフ・サイクル・マネジメント)	PTH	parathyroid hormone (副甲状腺ホルモン)
ASCT	autologous stem cell transplant (自家幹細胞移植)	EOE	eosinophilic esophagitis (好酸球性食道炎)	mAb	monoclonal antibodies (モノクローナル抗体)	R/R	relapsed/refractory (再発/難治)
ARD	acid-related diseases (酸関連疾患)	ESCC	esophageal squamous-cell carcinoma (食道扁平上皮がん)	MAOB	monoamine oxidase B (モノアミン酸化酵素B)	RCC	renal cell cancer (腎細胞がん)
BTK	Bruton's tyrosine kinase (ブルトン型チロシンキナーゼ)	FL	front line (フロントライン適応)	MG	myasthenia gravis (重症筋無力症)	RTK	receptor tyrosine kinase (受容体チロシンキナーゼ)
BBB	blood brain barrier (血液脳関門)	FSI	first subject in (最初の患者登録)	MLD	metachromatic leukodystrophy (異染色性白質ジストロフィー)	sALCL	systemic anaplastic large cell lymphoma (全身性未分化大細胞リンパ腫)
BOS	budesonide oral solution (ブデソニド経口懸濁液)	GCC	guanylyl cyclase C (グアニル酸シクラーゼC)	MM	multiple myeloma (多発性骨髄腫)	SBS	short bowel syndrome (短腸症候群)
CAR-T	Chimeric antigen receptor-T (次世代型キメラ抗原受容体発現T細胞)	GERD	gastroesophageal reflux disease (胃食道逆流症)	NAE	NEDD8 activating enzyme (NEDD8活性化酵素)	SC	subcutaneous formulation (皮下投与製剤)
CD	Crohn's disease (クローン病)	GI	gastrointestinal (胃腸)	ND	newly diagnosed (新たに診断された)	SCD	sickle cell disease (鎌状赤血球症)
CHAWI	congenital hemophilia A with inhibitors (インヒビター保有先天性血友病A)	GnRH	gonadotropin-releasing hormone (ゴナドトロピン放出ホルモン)	NDA	new drug application (新薬承認申請)	SCT	stem cell transplant (幹細胞移植)
CIAS	cognitive impairment associated with schizophrenia (統合失調症に伴う認知障害)	GU	gastric ulcer (胃潰瘍)	Neg	negative (陰性)	SCZ	schizophrenia (統合失調症)
CIDP	chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy (慢性炎症性脱髄性多発神経炎)	GvHD	graft versus host disease (移植片対宿主病)	NERD	non-erosive reflux disease (非びらん性胃食道逆流症)	SLE	systemic lupus erythematosus (全身性エリテマトーデス)
CML	chronic myeloid leukemia (慢性骨髄性白血病)	HAE	hereditary angioedema (遺伝性血管浮腫)	NK	natural killer (ナチュラルキラー)	sq	squamous (扁平上皮)
CMML	chronic myelomonocytic leukemia (慢性骨髄単球性白血病)	H2H	head to head (直接比較)	NME	new molecular entity (新規候補物質)	STING	stimulator of interferon genes (インターフェロン遺伝子刺激因子)
CMV	cytomegalovirus (サイトメガロウイルス)	HCC	hepatocellular carcinoma (肝細胞がん)	NSCLC	non-small cell lung cancer (非小細胞肺癌)	SUMO	small ubiquitin-related modifier (低分子ユビキチン様修飾因子)
CSF	cerebrospinal fluid (脳脊髄液)	HemA	hemophilia A (血友病A)	NSCT	non stem cell transplant (非幹細胞移植)	TESD	treatment emergent sexual dysfunction (治療に起因する性機能障害)
CNS	central nervous system (中枢神経系)	HER2	human epidermal growth factor receptor 2 (ヒト上皮成長因子受容体2)	NS	negative symptoms (陰性症状)	TKI	tyrosine kinase inhibitor (チロシンキナーゼ阻害剤)
CRL	complete response letter (審査完了報告通知)	HL	Hodgkin's lymphoma (ホジキンリンパ腫)	ORR	overall response rate (全奏効率)	TRD	treatment resistant depression (治療抵抗性うつ病)
CRPS	complex regional pain syndrome (複合性局所疼痛症候群)	HR MDS	high risk myelodysplastic syndromes (高リスク骨髄異形成症候群)	PARP	poly (ADP-ribose) polymerase (ポリADPリボースポリメラーゼ)	UC	ulcerative colitis (潰瘍性大腸炎)
CTCL	cutaneous T cell lymphoma (皮膚T細胞性リンパ腫)	IBD	inflammatory bowel disease (炎症性腸疾患)	PBS	phosphate buffered saline (リン緩衝生理食塩水)	VWD	von Willebrand disease (フォン・ウィレブランド病)
CTTP	congenital thrombotic thrombocytopenic purpura (先天性の血栓性血小板減少性紫斑病)	IND	investigational new drug (治験薬)	PACB	potassium competitive acid blocker (カリウムイオン競合型アシッドブロックャー)		
DAAO	D-amino acid oxidase (D-アミノ酸酸化酵素)	I/O	immuno-oncology (がん免疫治療)	Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia (フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病)		
DEE	developmental and epileptic encephalopathies (発達性てんかん/てんかん/てんかん)	ITTP	immune thrombotic thrombocytopenic purpura (免疫性血栓性血小板減少性紫斑病)	PID	primary immunodeficiency (原発性免疫不全)		
DLBCL	diffuse large B cell lymphoma (びまん性大細胞型B細胞リンパ腫)	IV	intravenous (静脈投与)				

59

